

# 自治研 センターニュース

1988. 1. 15

№ 63

発行責任者 深堀義孝  
川崎地方自治研究センター  
電話 044 (244) 7610

## 1987年度の自治研センター活動について

### 12月10日 第3回総会報告

川崎地方自治研究センターの第3回総会が12月10日(木)午後3時からいさご会館第12会議室で行われました。岩淵理事長の開会のあいさつのあと、議長に持田一成さん(市職員労働組合)を選出し、和田事務局長より86年度事業報告、決算報告が行われました。

報告承認の後、引き続き87年度議案として深堀常任理事より事業計画・予算及び役員選出案が提出され、満場一致で承認されました。

87年度事業計画については、裏面に掲載しましたが、今年度は、調査・研究・学習・出版の各委員会の活動を活発にし、自治研センターの活動をより充実させることとしています。

また、新たな事業として、「市民運動実態調査」を行うこととし、市民運動のネットワークの一助となることを目標とします。さらに、「アメニティ川崎づくり」の政策提言にむけ、市民参加による意見交換の場として7月に市民シンポジウムを開催することとしています。

議案第2号 社団法人地方自治研究センター役員及び事務局体制

(87年度)

役職	氏名	所属	役職名
理事長	岩淵英之	市民ミュージアム準備事務局	室長
常任理事	深堀義孝	川崎市職員労働組合	中央執行委員長
理事	森山定雄	川崎市教職員組合	執行委員長
"	山岸八郎	全川崎労働組合協議会	副議長
"	加藤啓将	川崎水道労働組合	執行委員長
"	曾根義久	川崎交通労働組合	執行委員長
"	梅沢孝志	川崎市職員労働組合	副執行委員長
"	鈴木安房	"	"
"	大山久人	"	書記長
顧問	白井則彦	電機労連神奈川地区協議会	副議長
監事	江井茂	川崎市職員労働組合	財政部長
"	高橋弘	川崎市教職員組合	貸対部長
事務局長	和田秀樹	川崎市職員労働組合	調査部長
事務局長次	川辺次郎	川崎市教職員組合	副執行委員長
"	坂橋洋一	川崎市職員労働組合	中央執行委員
専任研究員	中村真吾・佐藤紘毅・野上和裕		

【事務所】 川崎市川崎区富士見2-5-2 労働会館5階  
TEL 044-244-7610

### 講演会

「INF条約の現状と展望」

一米ソ核超大国の軍縮の思惑—

講師 前田哲男氏(軍事評論家)

1月28日(木) 午後3時~5時

場所 川崎市労働会館5階会議室



### 紙面協力についてのお願い

先の出版委員会において、月刊紙である本紙の内容について改善の提案がなされました。講演会等の報告は、季刊で発行する予定の小冊子に譲ることとし、本紙は、センターからのお知らせ、会員の交流の場としての性格をもたせることになりました。どんなことでも結構ですから、みなさまからのご意見をお寄せ下さい。

## —自治研センター交流集会の報告—

88年度地方自治研究センター交流集会が、12月17日~19日大分県湯布院町で開催され、全国から25の自治研センターの研究員・事務局員が参加しました。

自治労本部の地方自治総合研究所の運営で行われたこの集会は、初日、湯布院町で活発に村おこし運動を行っている「亀の井別荘」主人の中谷健次郎さんの講演、大分県自治研センターの竹村修一氏(大分大学教授)の「大分県における一村一品運動の現状と課題」の講演がありました。2日目は、津山市財政部次長の大山憲貞氏から「地域産業政策と雇用創出対策について」の講演を受けた後、午後から経営問題・研究部門の2つの分科会に分かれ、各自治研センターとの熱心な討論の中で交流を深めてきました。3日目は、マイクロバスをチャーターし、湯布院町の地域実情調査を行ってきました。

## —友よ、書を読み街へ出よう—

### 読書会

1月18日(月) 午後6時~

テキスト 八木義徳著 「家族のいる風景」

福武書店 ¥1,500

2月22日(月) 午後6時~

テキスト 荒俣 宏著 「帝都物語第3巻」

角川文庫 ¥380

講師 酒井成美氏(『デルタ』同人)

場所はいずれも川崎市労働会館4階会議室

### 研究会

1月25日(月) 午後6時~

テキスト 和田春樹著 「私の見たペレストロイカ」

岩波新書 ¥500

2月29日(月) 午後6時~

テキスト 姜 信子著 「ごく普通の在日韓国人」

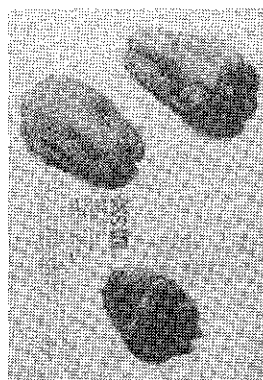
朝日新聞社刊

場所はいずれも川崎市労働会館4階会議室

読書会 研究会とも本を購入したい方は、自治研センターに連絡下さい。1割引で頒布します。

## —お役に立てば— 市政資料の紹介

### 女の目 [かわさき] 都市計画



川崎市の都市整備局から「女の目(かわさき)都市計画」という小冊子が発行された。これは、1984年3月に発行された「こどもの目(かわさき)都市計画」に続くもので、どうしても大人の男の論理によって造られてしまう都市づくりに対して、軽視されがちな子ども・女の目から都市づくりを考えてみようという発想からなっている冊子である。

「こどもの目」は、市内の小学生のアンケート調査を中心に編集

されたものであったが、「女の目」は、それぞれ都市に対して一家言をもつ女性たちの座談会を中心に編まれている。

ハード中心の都市づくりからソフト中心そしてハートウエアへの都市づくりを、細かい部分にも目のいきとどいたまちづくりをという意見は、新鮮なものとして映る。また、男から見てももっともだという意見もある。

その意味では、斬新な発想を提起したものとして面白く読める。

定款第4条の規定に基づき、事業の柱を(1)調査 (2)研究 (3)学習 (4)出版とし、具体的な事業の推進については、正会員から選任する専門委員(約20名)により構成される四専門委員会での討議を踏まえ実施します。

### 1. 調査活動

#### (1) 資料の収集及び公開

川崎市が、発行する各種統計資料及び予算・決算等の資料を収集します。また、地方自治に関する参考文献、他都市自治研究センター等が発行する定期刊行物、雑誌等も調査活動の一環として収集・購入を行い、広く市民及び会員の閲覧に供します。今年度は図書200冊の購入を予定し、雑誌30種を定期購読します。

#### (2) 市民運動実態調査

##### ① 調査の目的

この調査は、地域において市民が自主的にまちづくり・環境保全・平和などの行政全般にわたる諸課題を対象に行っている市民運動の活動実態を浮き彫りにし、政策研究の基礎資料を得るとともに、都市主権者としての市民による自治の活性化の一助となることを目的とする。

##### ② 調査の概要

- ア. 実施機関 (社)川崎地方自治研究センター
- イ. 調査対象 市内で活動中の市民運動団体
- ウ. 調査方法 調査票郵送方式
- エ. 調査時期 1988年4月までに実施
- オ. 調査項目 運動の内容・目的、活動状況など
- カ. 調査結果 報告書を作成し出版します

#### (3) 川崎市民の市政意識調査の準備

第2回調査を1988年度に実施するために、今年度は第1回調査の総括・反省点をふまえ調査方法、調査項目の検討などの準備作業を行います。

### 2. 研究活動

#### (1) 政策研究

地方自治の確立と民主的な自治体を展望した政策研究を行います。具体的には年6回の研究会を開催し講師より問題提起を受け、課題ごとに討論の場を作りながら運動論を研究します。

- ア. テーマ 「ライブラリー・ポリシークス」
- イ. 研究期間 1987年8月～1988年7月まで
- ウ. 研究成果 報告書として冊子を作成します

#### (2) 課題別研究

##### ① アメニティ川崎・政策研究会

アメニティとは“適切なものが適切なところにあること”の意味で、環境を構成する自然や施設、歴史的、文化的伝統などが他を活かし合うようにバランスがとれ、その中で生活する人間との間に真の調和が保たれている場合に生じる好ましい感覚を意味しています。この研究会では、川崎をアメニティタウンにしようとする市の計画に肉付けをするために行政関係者等からのヒアリングを行い、政策提言の作成を目指すものです。

- ア. テーマ 「アメニティ川崎づくり」  
具体的には、まちづくり、福祉、産業と雇用などを課題とします。
- イ. 研究期間 1987年9月～1988年8月(月1回開催)
- ウ. 構成員 高橋 進(東京大学教授)  
坪井 善明(北海道大学助教授)  
新藤 宗幸(専修大学助教授)  
中村 貢吾(センター専任研究員)  
佐藤 紘毅(センター専任研究員)  
野上 和裕(センター専任研究員)  
事務局

##### エ. 研究成果

##### ② 地方自治研究会

専門委員及び会員の中から若干名の研究員を選任し、地方自治制度の現状、問題点、改革の方向を研究します。さらに、この基本研究を行う中から政策づくりスタッフの養成をも目指し

ていきます。

#### (3) 委託研究

他団体からの委託により研究を行います。今年度は、川崎市からの委託を受けて次の内容で研究を行います。

- ア. テーマ 「スペインにおける地方自治と労働運動」  
「高齢者と家庭婦人の雇用機会の創出」
- イ. 研究執筆 佐藤 紘毅(センター専任研究員)  
野上 和裕(センター専任研究員)
- ウ. 研究成果 報告書として冊子を作成します

### 3. 学習活動

#### (1) 自治研教養講座の開催

- ア. テーマ 政治・経済・社会などの問題について適宜に設定
- イ. 開催時期 1987年9月～1988年7月まで  
(年10回開催)
- ウ. 場所 川崎市労運会館ほか
- エ. 講師 野上 和裕(センター専任研究員)ほか
- オ. 対象 会員及び市民を対象に各100名程度
- カ. 受講料 無料

#### (2) 読書会の開催

会員を対象に①文芸作品及び②政治・経済・社会問題に関する図書の読書会をそれぞれ月1回開催します。参加費は無料とし教材の本代のみ自己負担とします。

#### (3) 外国語会話講座の開設

- ア. 講座名 英会話・中国語講座
- イ. 期間 週1回 6カ月を1期間とする
- ウ. 講師 英会話については、姉妹都市ボルチモアから交換教師として派遣されて  
いる  
ジョン・エドワード・ハフマン  
ブランチ・モーガン・ジュニアの両氏  
中国語については、区 建英氏
- エ. 受講料 1カ月 4,000円
- オ. 定員 各15名

#### (4) 市民シンポジュームの開催

「アメニティ川崎づくり」の政策提言にむけた市民参加による意見交換の場として、広く市民各層に呼び掛けを行う中で、1988年7月にシンポジュームを開催します。詳細については実行委員会を設置して対応を図ります。

#### (5) 加入団体が開催する研究活動への協力

地方自治に関する調査・研究活動を行おうとするセンター会員に対して講師派遣をはじめとした協力を行います。  
とりわけ、87年10月14～17日には第22回地方自治研究全国集会在神奈川の地で開催され、川崎市でも3分科会の会場が置かれることから、この集会の成功にむけて協力していきます。また、87年11月27日～12月8日まで開催される「川崎市友好姉妹都市国際教育交流事業」についても協賛して行きます。

### 4. 出版活動

#### (1) 機関紙「自治研センターニュース」の発行

- ア. 内容 センターの活動報告、保存資料の紹介など
- イ. 発行部数 毎月 3,000部
- ウ. 配布先 会員、市内公共図書館、その他関係団体
- エ. 発行日 毎月15日

#### (2) 第5次「川崎市財政白書」の発行

会員である川崎市職員労働組合と2年に1回の作成を続けている財政白書を作成します。

#### (3) 主要な研究成果や調査結果等を冊子にして出版します。

### 5. その他

地域における市民の調査・研究活動グループと接点を持ち便宜供与等を図りながらネット・ワークづくりを推進するとともに、農漁村との提携など地域間ネットワークづくりにも力を注ぎます。



一九八八年も、無事幕を開け、自治研センターも新たな気持ちで活動しようとしています。

さて、昨年十二月に第三回総会を開きましたが、今年度は職員もアルバイトから専従体制(永橋書記)になり、連絡体制の不備を改めました。また、懸案であった四つの委員会も十二月二十三日に開催し、それぞれ座長・副座長を決め、年四回程度開催することにしました。

自治研センターの活動は地味なもので、なかなかみなさんに伝わりにくいものがあります。が、まず組織体制を充実することによって、より活性化することになると思います。

事務局としても、まず手始めに本紙の体裁を変えてみました。出版委員会では、みなさんにより読まれる本紙にしたいと言いましたが、よく読まれるかどうかは、体裁よりも中味にあるのだと思います。そのためにもより自治研センターの活動の充実をめざしていきます。(タイガ)

# 自治研 センターニュース

1988. 2. 1

No. 64

発行責任者 深堀義孝

川崎地方自治研究センター

電話 044 (244) 7610

## 地域課題への積極的対応に学ぶ

——アメリティ川崎島根調査団報告——

3月に「アメリティ川崎」の提言を予定している研究班は、1月10日から12日までその事前調査として島根県の地域課題とそれをめぐる行政、市民の実態を調査してきました。調査団は、新藤宗幸（専修大学助教授）、高橋進（東京大学教授）、坪井善明（北海道大学助教授）と事務局員の4名です。

### 過疎の町、日原町に学ぶ

森鷗外や西周の郷土として有名な観光の町津和野の隣りにある日原町は、山陰の山間部を流れる高津川添いにある人口5000弱の小さな町です。20%以上の高齢人口を抱え、若者の流出が続く過疎化に悩んでいますが、観光資源の開発と農林業の発展をテコとして生き生きとした町づくりを進めています。一人の市民として日原町の繁栄を願う下森華子さんと、限られた予算と国、県の目が必ずしも細かい点まで行き届かない中で奮闘する町長さんから話をうかがってきました。

日本一の鮎がとれる町、そして星のふる里として大天文台と都会的なセンスのペンションを作った日原町の町づくりへの情熱に深い感銘を受けました。



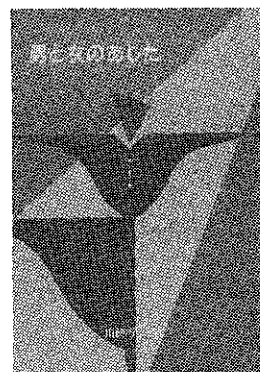
島根県の都松江市は、松江城、小泉八雲の地として有名な観光地でもあります。しかし松江のルーツは何といても、シジミ等七珍料理で名高い宍道湖にあります。

今、国の農水省は、この汽水湖（海水と淡水が混じった湖）である宍道湖とその隣接する中海を淡水化させ、干拓しようというプロ

## 宍道湖・中海の淡水化・干拓をめぐって

## お役に立てば——市政資料の紹介

### 男と女のあした



市民局婦人室から、「男と女のあした」という小冊子が出された。

国際婦人年を契機として、男女平等をめぐる運動は盛り上がり、日本でも男女雇用機会均等法の施行や、川崎をはじめ各自治体で婦人行政担当組織がつけられるなど、法律、行政面での環境づくりが進んだ。

社会党の土井たか子委員長や女性管理職の増大等、「元気印」の女性の活躍もめざましい。

しかし、日常生活における家庭や地域・職場での女性の地位につ

いては未だしの感がある。

女性は家庭で育児、職場の花であれば良い等々、女性に対する偏見や差別観は、家父長制度、男尊女卑の社会通念として根強く残る。

「女性の問題は女性だけのことではなく、男性を含め相互に理解し、協力して解決していくことが大切です。」巻頭文にあるように、男女差別をどう克服するか、男と女の協力が大切だ。

その意味で、地味な装幀ながら、事例ごとに分かりやすく解説する本誌は啓蒙の書として一読の価値がある。

ジェクトを推進しようとしています。

農業・生活用水の確保、農地の拡大をもくろんだ政策なのですが、秋田県の大田の例にもあるように、農業政策の行き詰まり、減反政策がとられている中で、それを推進する意味は薄くなっています。

また、松江の観光資源でもあり、漁業等の重大な産業基盤でもある宍道湖をつぶしてしまう経済的デメリットの方がはるかに高いと言われていています。そして、淡水化によるアオコの発生等の環境汚染。

こういった状況にもかかわらず、農水省と県は、部分的淡水化試行という妥協策を出して実質的な全面的淡水化・干拓を押し進めようとしています。

松江市では、未だ市長の態度は、はっ

きり出されていませんが、島根県評が行ったアンケート調査では、反対が圧倒的な数を占め、またさきごろ地元の商工会議所も見直しを国に迫っています。

このような問題を中心にして、島根県庁、松江市役所、島根県自治研センターを訪れ、調査してきました。



### ペレストロイカってなんだ

——ソ連が変わる——

講師 下斗米伸夫（成蹊大学教授）

日時 2月25日（木）

午後3時～5時

場所 いさご会館中ホール

野上和裕専任研究員の  
プロフィール

1961・3・17 北海道赤平市で生まれる ■ 小学校4年の時  
兵庫県西宮市に転居 ■ 甲陽学  
院卒業後 ■ 1979・4 東京大  
学法学部に入學 ■ 1983・4  
同学部研究室助手 ■ 1986・10  
川崎自治研センター専任研究  
員・専攻 ヨーロッパ政治史  
—スペインにおける寡頭制的  
議会政治

Q 「自治研人・会」の第1回目に登場するのは、若手の研究家で、自治研センターの専任研究員として活躍されている野上和裕先生ですが、まず、ひととおりの自己紹介を

A 身長は184cm、体重はちょっと太りぎみで87kg、好きな女優

は吉永小百合、現在まで未婚、両親は西宮に住んでいるので文京区本郷に下宿住まい。趣味は将棋です。

Q 新人類世代になるわけですが、自分はどう思いますか。

A 社会科学に関心があり、それを一生のなりわいとしている限り、新人類の部類には入らないと思う。

Q 政治学に興味を持った理由は

A アナキズムみたいなものに興味があった。恩師である篠原一教授や先輩の高橋進教授、馬場康雄教授の印象が良かったので、継続している。

Q スペイン政治史を専攻する人としては、自治研センターとは合わないと思いますが。

A いろいろな人と知り会え、また地方自治を専門とする人たちと交流するのは勉強になります。また、僕の知識を通じて、自治研センターの人たちに刺激を与

えたりすることは有意義だと思います。

Q 最近読んだ本ですすめられるのはありますか。

A 「トロンからの発想」, 「ハンガリー事件と日本」, 「バカにつける薬」などがおもしろかった。

Q 川崎の印象は

A 川崎駅周辺に限って言えば、風俗営業やギャンブルが街を気づけているが、アゼリア等の繁華街は人も少なくゆったりしている。評価は別として、このギャップがおもしろい。

Q 最後に自治研センターについて

A 新人類受けする気ではないが、おもしろくなければセンターじゃない。そんなものを追究してみたい。また、労働会館内のセンターは、地の利はあるが、若干狭く、購入図書置き場にも困っている。もう少し広いスペースが欲しい。

## 友よ、書を読み街へ出よう

## 読書会

2月22日(月) 午後6時～

場所 市労連会館4階会議室

題材 「帝都物語3」

荒俣宏著 角川文庫

講師 酒井成美氏(『デルタ』同人)

## 研究会

2月29日(月) 午後6時～

場所 市労連会館4階会議室

題材 「ごく普通の在日韓国人」

姜信子著 朝日新聞社刊

※ 読書会、研究会とも本を購入したい方は、自治研センターで1割引で頒布しています。

## ある集会で

昨年11月26日と今年1月19日の夜、市労連会館講堂で、「公務員の国籍条項問題を考えるセミナー」の連続集会が行われた。

民族差別・外国人差別の顕著な例としての就職差別、「日立就職差別」に見られるように、歴史に対して無反省のままに、外国人だからといって差別する日本の体制と日本人の意識。

その中でも、公務員は、「外国人による権力の行使はそぐわない、機密事項の漏洩を防ぐ」等の理由で、一般職については、試験すら受けられない。指紋押捺拒否をめぐる民族差別問題について、人道主義的立場(伊藤市長)で全国的に先駆的な運動を担った川崎市においても、公務員の国籍条項に関しては、

この指とまれ  
「ゆんたんざ 沖縄」上映会

「日の丸」なんかべーだ!  
今、反戦・平和を先っぽだ  
けでも考えてみよう!  
沖縄、復帰15年目の夏。  
日の丸・海邦国体を迎え、  
胎動する読谷の記録映画  
2月13日(土) 午後2時と6時  
川崎市労働会館大会議室  
問い合わせ 上映委員会  
〒210 川崎市川崎区桜本1-8-22  
青丘社青年部気付  
TEL 044-288-2997

未だに対応が遅れている。

関西の地で国籍条項問題について献身的な運動をしている人たちからの講演、そして現実に就職差別を受けた若者の話、さらに本名を名づけることによって差別問題を正面から受けようとする学生の話は、より具体的であっただけに、100名に近い聴衆の胸にズシンと打つものがあった。

## うたぎのどこ

大分県の湯布院町と島根県の日原町という山間部の小さな町を訪れる機会を得た。それぞれ町の歴史やおかれている環境が違っているので、ひとくくりで述べることができないが、都市への人口集中、その供給源として若者層が流出し、過疎の問題を抱えているという共通点がある。その対策として、地場産業の振興、新しい産業の開発等を軸に、積極的な村おこし、町づくりを行っているという共通点もある。片や一村一品運動の盟主として大分県のバックアップを受ける湯布院一方、あまり島根県からの積極的対応を受けない日原。その違いはあっても、活動的な市民が中心となって町当局と進める町づくりの話を聞くと、その生き生きとした姿勢や、ものを創り出すロマに心を打たれる。どちらも、小さな町、そして限られた財政だからこそ人間的なものが見えてくるのだから。

巨大な財政と、人口を抱えた都市川崎には欠けているものを見た。

(タイガ)

## 結婚が決まったヨ

——酪農体験ツアーが縁結び——

昨年8月に当自治研センターと北海道中標津（なかしべつ）町との共催で実施した“視界360°酪農体験ツアー”のそれに参加した川崎・横浜の女性のうちのひとりが酪農青年との恋を交わせ、3月に結納、年内に結婚式のはこびとなりました。

この女性は横浜市在住の22歳のOLで、ツアー参加後に会社を退職。10月から3カ月間中標津町に酪農実習に行っていたもの。

現在、この女性のほかにもツアーに参加した3人の女性が酪農実習や酪農青年との交際などを続けており、2組目、3組目のカップル誕生も十分に考えられます。

ツアーは川労協・電機労連神奈川地協等の後援を受けて、8月21日から4日間の日程で実施したもので、新聞を見て19～26歳のOL・公務員などさまざまな職業の女性7人が参加しました。

人口過密地帯に住む都会っ子で、広大な北海道の大自然に囲まれた生活にあこがれを抱いている女性は数多くいると思います。しかし、現実にはなかなかそのような機会にめぐり会えることはありません。

そこで企画したのがこのツアーで、摩周湖、知床、ノサップ岬などの道東観光をするとともに、1日はファーム・ステイ（酪農家分宿）をし、赤いサイロ・放牧されている乳



牛、緑の草原の中で実際に酪農体験ができるようにしました。

参加した女性たちからは、「費用負担が5万5千円と割安であった。北海道に友達ができて大変よかった。見失いかけていたものを見つけた感じ。心あたまる中標津町の人々の対応が素晴しかった。カニ・ジャケ・ジャガイモなどおいしいものをたくさんたべた。」などの感想が寄せられています。そして、3人の女性からは自宅に帰ってきて1週間は頭の中が中標津のことでいっぱいであり、できればもっと滞在したかったとの意見が出されています。

## お役に立てば——市政資料の紹介 「クォーターリーかわさき」



企画調整局文化室から発行されている「クォーターリーかわさき」は、既に14号をかぞえ、愛読されている方も多いと思うが、あらためてこの雑誌を応援する意味で紹介したい。

昨年、第3回全国タウン誌コンクールで、自治体で初めての大賞に選ばれ、また全国PR誌コンクールでも特別賞を受けた。

受賞理由は、「自治体広報誌として、都市の文化意志がはっきり出されている。ともすれば堅くなりがち自治体発の文化情報を、読み易くするための努力を続けている。」とされている。

「クォーターリー」の特集記事

は、その視点も良く、内容も充実して、読みごたえのあるものとなっている。例えば、最近号では「平和都市への座標」が特集されているが、座談会、談話、寄稿文ともたんなる平和への憧憬だけでなく、現実の問題を直視した上での意見が語られている。

自治体の発行する情報紙誌の多くが、行政の一方的なお知らせか、中立という立場をとるため、読んでいても歯がゆさが残るものがあるが、「クォーターリー」は民族問題等、川崎のふれられたくない歴史の暗部も掘り出す作業を行っているところに好感が持てる。

川崎市政・市民に問題提起をする姿勢は、今後も持ち続けて欲しい。

中標津町は根室支庁管内の中央部にあり、面積684km<sup>2</sup>（川崎市の5倍）、人口約2万2千人で、酪農を産業の主体とするとともにジャガイモなども作っています。町の中には雪印乳業の工場があり、バター・チーズなどの乳製品を生産しています。また、ムツゴロウ（畑正憲氏）の牧場があることでも有名であるとともに、去年は寅さんの「男はつらいよ」（山田洋次監督）の舞台ともなりました。

酪農も長時間肉体労働というのは昔の話で、今では機械化が進み、大規模農場経営となっており、牧草の育成・刈り入れ、さく乳などの作業はすべて機械によって行われています。

機械化で労働が軽減されたため、昼間は多くの自由時間があり、町に行き趣味・習い事などをしている人もかなりいるようです。

酪農体験ツアーで酪農に対するイメージも変わってきます。都市と農村の交流、若者たちの交流の輪を広げるために、今年も8月中旬

にこのツアーを実施する予定です。貴女も地球が丸く見える、そしてすみぎった夜空に無数の星の輝く雄大な自然を満喫してみませんか。

※ 募集要綱は6月にこの紙上で掲載します。



## 「コメのしくみ」

——コメ国家黒書——

講師 長谷川 熙（朝日新聞編集委員）

日時 3月30日（水）

午後3時～5時

場所 川崎市労連会館5階講堂





区 建英(オウ チェンイン)先生のプロフィール

1955・10・27 中国の広州市で生れる。北京師範大学卒業後、暨南大学の講師として世界近代史を教える。'86・4 来日、'87・4 東京大学総合文化研究科博士課程に私費留学、地域文化を研究する。自治研センター中国語講座講師

——自治研センターで中国語を教えている区先生ですが、まず川崎とのつながりは、

A 中国で大学の講師をしているとき、私の弟子が旅行会社の仕事をしていました。日本からの旅行客が来たとき私の勉強の意味からたびたび同行してたのですが、たまたまその中に大島3丁目に住んでおられる加藤さんという方がいまして親しくなりました。加藤さんが日本に帰られてからも文通したりしてまし

て、私が留学するのを知って、是非家に来てと言ってくれたのでお世話になりました。

——それでは、来日した最初の街が川崎だったということですね。

A ええ、そうです。

——川崎の街の印象はどうか。

A 工業都市と聞いていたのですが、空気はきれいだし、建物も美しい、中国の工業都市とは違いますね。

——川崎もかつては、大気汚染等公害の街といわれていたのですが。

A 市役所の方からそういう話は聞きました。でも、今はほんとうに美しいです。それに、ゴミの毎日収集といったことも素晴らしいですね。

——市役所や自治研センターとのつながりは、

A 二つの理由があります。一つは、私は民間レベルでの国際交流を大事にしたいと思っています。川崎に来て、外国人登録を行ったとき、市長室を訪れその旨を述べましたら、市役所の方が親切に接客していただき、また、瀋陽市と姉妹都市を結んでいるということで瀋陽市との交流の機会に私を招んでくれました。二つめは、経済的な理由で、私費留学ですので少しはアルバイトもしなければと思ってたときに、中国語講座のお話がありました。

——話は変わりますが、専攻は何か。

A 私の研究テーマは、「中国と日本の近代思想比較研究」で、主に福沢諭吉を研究しています。

——福沢諭吉と言えば、脱亜入欧で、

A いえ、私はそう思いません。福沢の独立自尊、官尊民卑の逆転といった考え方に魅かれています。

——日本には長く滞在されるのですか。

A 博士論文を書くまでは、最低3年かかるとお思いますので、——最後に何かありますか。

A 先ほども言いましたように、私は民間レベルでの国際交流を大事にしたいと思っています。その意味で、瀋陽と川崎の交流が頻繁なことを大変嬉しく思います。また、東京は、首都ということで、どうしても国家レベルの色彩が強いのですが、川崎の場合、労働者の街でもあるし、民間レベルでの交流が活発にできるとお思います。中日友好関係は、若干のトラブルも見られますが、基本的にいい方向に進んでいるとお思います。川崎市のみなさんは、とても優しく心が開かれているので、今後も民間レベルでの交流に力を入れていきたいとお思います。その意味で、私もできるかぎり協力したいとお思います。



この指とまれ

川崎市職員海外派遣研修のつどい

日時 3月23日(水) 午後1時～7時 第2部

場所 いさご会館新館2階

分科会 研修生の研究発表・体験談

第1部

第3部

講演 バレリー・ケインさん  
NHKラジオ英語会話講師

ふれあいパーティー

海外研修に派遣された川崎市職員が、主体的に企画し運営する“つどい”です。研修の成果や今後の川崎市の国際化をみなさんと論じ合う場にしたいと思います。

ある集会で

2月7日(日)、市民プラザで行われた川崎市ボランティアセンター主催の「アジアのつどい」に参加した。

アジアからの留学生を招き、アジアの正月料理を紹介し、音楽・踊り・遊び等をつうじてアジアの文化を楽しんでもらおうという実行委員会の企画であった。集会参加者も、プラザの広場いっぱい集まり、盛会であった。

子供や若い人たちの参加も多く、アジアとの交流という、ほんらいとってもしんどい課題であるにもかかわらず、企画によっては、このようなソフトムードの中で考えるきっかけを与えられるということを学んだ。

ただ、アジアのみならず第三世界との交流は、日本の国家、あるいは経済のやり方を見ている限りでは、先行も展望はない。いきおい、このような民間レベルでの交流が大切なものとされるのだけれど、その限界もある。自治体と市民との共同作業が、国際交流に期待されるゆえんであろう。

友よ、書を読み街へ出よう

読書会

「チュウサン階級の冒険」

嵐山光三郎著 角川文庫

3月14日(月) 午後6時～

場所 市労連会館4階会議室

講師 酒井成美氏(『デルタ』同人)

研究会

「まちづくりの発想」

田村明著 岩波新書

3月28日(月) 午後6時～

場所 市労連会館4階会議室

講師 野上和裕専任研究員

※ 読書会、研究会とも本を購入したい方は、自治研センターで5%引で頒布しています。

うなぎのどこ

都市の国際化が高齢化とともに行政の重要課題となっている。川崎の街にも、ハイテク産業の発展、インテリジェントビルの建設等の影響か、外国人の顔を見る機会が多くなった。リエカ、瀋陽、ボルチモアに続き4番目の姉妹都市としてオーストラリアのウーロンゴ市が内定し、川崎市としても国際化に弾みがつくだろう。

しかし、国際化、国際交流という世界の「超一等国」となっても、日本の眼はまだまだに欧米に多く向けられているようだ。貿易摩擦、軍備増強といった国際問題の中心は、その是非はともかく、北側先進国の論理で展開されている。川崎の場合、その重化学工業都市としての成り立つ過程において、在日朝鮮、韓国人、あるいは外国ではないが、沖縄や東北地方からの労働者が、日本の資本主義の底辺を支えた部分としてあった。

また、最近では小企業や風俗産業などに、東南アジア系の外国人を多くみかける。流れ者の集合体としての都市の中でも、こういった出稼ぎの場としての特色をもつ川崎自治体の国際化、川崎の国際化を論じる場合、現実の状況をどうとらえていくかがまず必要とされる。(タイガ)

# 自治研 センターニュース

1988. 3. 10

臨時号

発行責任者 深堀義孝

川崎地方自治研究センター

電話 044 (244) 7610

## 英会話講座

### 新規・継続受講生募集

自治研センター主催・英会話講座は、本年度はボルチモア市の交換教員、ハフマン先生とモーガン先生を講師にお迎えして開催しています。

3月をもって本年度講座の第1期が終了しますが、引き続いて6月末まで両先生の現行講座を開講することとなりました。形式的には、4講座とも第1期からの継続ですが、内容的には新規の方も受講可能です。御希望の方は、後段の要領を御覧のうえふるって御参加ください。

#### 記

#### 「入門」講座

期間 1988年4月～6月（開講日4月5日）  
日時 毎週火曜日、午後6時～7時30分  
会場 市労連会館 5階会議室（川崎駅下車）  
講師 ブランチ・モーガン氏  
テキスト 未定・開講日に配布  
受講料 1ヵ月4千円（12,000円一括納入）  
受講定員 15名

・全く英語の経験のないかたでも充分付いていけるものです。

#### 「初級」講座①

期間 1988年4月～6月（開講日4月7日）  
日時 毎週木曜日、午後6時～7時30分  
会場 市労連会館 5階会議室（川崎駅下車）  
講師 ブランチ・モーガン氏  
テキスト 未定・開講日に配布  
受講料 1ヵ月4千円（12,000円一括納入）  
受講定員 15名

・英会話の初心者向けの内容です。

#### 「初級」講座②

期間 1988年4月～6月（開講日4月5日）  
日時 毎週火曜日、午後6時～7時30分  
会場 市労連会館 4階会議室（川崎駅下車）  
講師 ジョン・ハフマン氏  
テキスト 未定・開講日に配布  
受講料 1ヵ月4千円（12,000円一括納入）  
受講定員 15名

・「初級」講座①と同じレベルです。

#### 「中級」講座

期間 1988年4月～6月（開講日4月7日）  
日時 毎週木曜日、午後6時～7時30分  
会場 市労連会館 4階会議室（川崎駅下車）  
講師 ジョン・ハフマン氏  
テキスト 未定・開講日に配布  
受講料 1ヵ月4千円（12,000円一括納入）  
受講定員 15名

・日常会話から一段進んだ内容の会話の習得を目指します。

## 中国語講座

### 新規・継続受講生募集

自治研センターでは、生きた外国語を学びたいという方のために、ネイティブ・スピーカーによる英会話講座と中国語講座とを開講しております。中国語については、86年8月より、区建英先生（東京大学大学院）にお願いして、初級者向けの講座を開講してきました。この度、88年2月末で、第3期の講座を好評のうちに終了することが出来ましたが、「引き続いて中国語を学びたい」・「新たに中国語を学びたい」という各方面の御要望にお応えして、4月からあらたに中国語中級講座を始めることになりました。内容としては、これまでの中国語講座の継続です。下記の要領で募集致しますので、受講希望者はお早めに当センターまで御連絡ください。また、中国語を初歩から学びたいという方の御要望にも応じますので、御希望の向きは当センターにお申し越してください。

#### 記

期間 1988年4月～9月（6ヵ月間）  
日時 毎週水曜日、午後6時～7時30分（開講日は4月6日）  
会場 市労連会館 4階会議室（川崎駅下車）  
講師 区建英氏（東京大学大学院）  
テキスト 開講日に指示します  
受講料 1ヵ月4千円（6ヵ月分一括前納）  
受講定員 15名

受講申込開始 88年3月22日

・受講希望者は、電話で自治研センター・中国語講座係（TEL 244-7610）まで、お申し込みください。

・定員に達した時点で、申込受付は終了致します。

### 英会話講座受講申込方法

- (1) 講座受講希望者は、社団法人川崎地方自治研究センター（TEL 244-7610）英会話講座係まで御連絡ください。
- (2) 受講申込受付は、3月22日（火）より開始されます。
- (3) 受付時間は、午前9時～12時、午後1時～5時です（土曜日は除く）
- (4) 電話申込みにより受講登録された方には、当センターより別途申込書が送付されますので、必要事項を記入のうえ、受講開始日に受講料とともに提出して下さい。
- (5) 各講座とも受講者が12名に達しない場合、講座は成立しません。また、定員になり次第受付は締め切られます。

# 自治研 センターニュース

1988. 4. 10

No.66

発行責任者 深堀義孝  
川崎地方自治研究センター  
電話 044 (244) 7610

## ハイテクVSシルバー

### 「川崎の雇用を考えるつどい」自治研センター後援

3月29日(火)、自治研センターも後援した川崎市市民局主催の「かわさきの雇用を考えるつどい」が開催された。

市内の産業界、労働界、市民、行政各層から200余名の参加を得た。

岸本重陳横浜国大教授の「日本経済の展望」という基調講演を受けた後、石川久雄国民経済研究協会参事をコーディネーターとして、「川崎の雇用を考える」パネルディスカッションが行われた。

重化学工業からエレクトロニクスを中心としたハイテク産業へと日本経済が転換していく縮図としての川崎、その意味で、全体の雇用労働者数は産業移動がスムーズに行われて、変化は見られないが、伸張するハイテク・サービス業の求める20代から30代前半の労働者の需要と、高齢化社会を迎えたシルバー人口の



職を求める層とのギャップが今後の川崎の雇用を考える最大の課題であることが明らかにされた。

個人的な努力や情諸的な思いやりだけでは、厳しさの増す競争社会の中で解決のつかない雇用問題ではあるが、締めくりとして、社会環境の整備の必要性が強調された。

今春闘で、労働側が賃上げと併行して労働時間の短縮、金融機関・役所の土曜閉庁をテコとした週休2日制の推進を要求しているが労働者の「ゆとり」を求め、労働を共に分かちワークシェアリングを強調していることはその社会環境の整備に役に立つのだろう。

### 友よ、書を読み街へ出よう

#### 読書会

「主体の変容——現代文学ノート」  
三浦雅士著 中公文庫  
日時 4月18日(月)午後6時～  
場所 市労連会館4階会議室  
講師 酒井成美氏(『デルタ』同人)

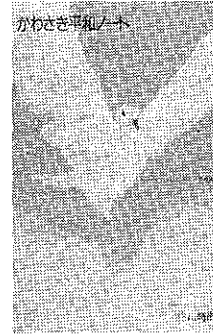
※ 研究会・読書会とも題材本を5%引きで自治研センターで頒布しています。

#### 研究会

「コメ国家黒書」  
長谷川照著 朝日文庫  
日時 4月25日(月)午後6時～  
場所 市労連会館4階会議室  
講師 野上和裕自治研センター専任研究員

## お役に立てば——川崎市政資料紹介

### 「かわさき平和ノート」



発行は古いですが、1986年12月に市民局から発行された「かわさき平和ノート」を紹介する。

1982年6月8日、川崎市は全国で7番目に「核兵器廃絶平和都市宣言」を行った。

地方自治を考える場合、市民生活を考える場合、まず平和が前提になる。神奈川県非核宣

言署名運動の中心者であった宮崎義一横浜国大教授がこのようなことを強調されていた。

たしかに、行政は110万川崎市民が現在生活し、これからも生活していくことを前提として業務を遂行している。戦争が前提にあり、何年か後には川崎市が破壊され、市民が一人もいなくなってしまうことが分かっている、年間7,000億円の予算が使われるわけではない。この至極当前なことが、あらためて問われなければならないことに、今の状況の難しさがあるのだろう。

56ページにわたるこの「平和ノート」は、川崎市をとりまく平和について、その国際状況か

ら地域課題まで、市民の立場から平和を追求しようという市政に貫かれて編集されている。

19ページに川崎市平和推進体系が図示されているが、実にいろいろな平和推進事業が行われているものだと思う。日常的な平和の中で、ともすれば忘れてしまいがちな平和をあらためて認識する機会には、多いほど良いと思う。

リエカ・瀋陽・ボルチモアの姉妹都市等を通じた国際平和を希求する連帯、さらには平和館の建設等、川崎の平和は推進されていく。

平和という問題を、たんに米ソ等の国際関係だけからとらえず、川崎の地域からとらえた資料として多に参考になる。

## Non/No! ——自衛官募集業務再開論をめぐって——

先の川崎市議会で、自衛官募集業務再開をめぐり議論があった。1971年に伊藤革新市政になって募集業務を返上して以来16年どのような背景があるかはわからないが、世の反動化が革新の砦にも押しよせてきたことに、焦立ちを覚える。

いわゆる憲法論議の中で、現行の日本国憲法は、GHQの押しきせ憲法であるという改憲論側の論点がある。言うまでもなく、憲法は国の基本法であるということから見るならば、正論のように見える。

しかし、日本は憲法の他にももう一つ基本法ともいえるものをもっている。日米安全保障条約である。これもまた、米国からの押しきせであることは論を俟たない。

我が国は、憲法と安保という二つの基本法からなる法体系を持っている。

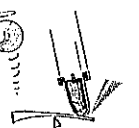
しかも、双方とも、外から選択を迫られたものであるところに、戦力をめぐり議論が定まらない原因があるのだろう。

しかしながら、憲法を遵守することの宣言を義務づけられた公務員は、違憲の疑いのあるものを推進する側にならないことは、「うなぎのねどこ」でも述べたとおりである。

くり返すが、違憲の疑いのある自衛隊を認知し、それを補足するのは、公務員法に反する行為なのである。

非核都市宣言を行ない、平和憲法に基づく平和行政に取り組む川崎市において、自衛官募集業務を再開することは、革新の大義を踏みはずすどころでなく、行政執行の大矛盾になる。

110万川崎市民の生命と健康を守るためには、市役所が自衛官募集を再開してはならない。







# KAWAPIC

今回の自治研人・会は、自治研センターといろいろな面で協力関係にあるKAWAPICを紹介いたします。代表者ともいべき上村英明氏から伺いました。

——まず、KAWAPICの紹介をお願いします。

A 正式名称は、KAWASAKI PEACE INFORMATION CENTERといひまして、その頭文字をとってKAWAPICとしました。日本語に直すと川崎平和情報センターということですが、1984年6月に、川崎市の核兵器廃絶平和都市宣言2週年にちなんで、我が国でも初めてとも言える川崎平和資料コーナーが設立され、そのボランティアグループとして発足しました。

——平和資料コーナーには、いろいろな国からの資料があるようですが。

A 国際政治学の泰斗である坂本義和明治学院大学教授（当時、東京大学教授）が、個人的に収集されていた資料を、川崎市が提供を受け、それを引き継いだ形で資料収集が行われています。

今、約25ヶ国から60種類ぐら

## ——自治研センターを構成する面々——

いの出版物を購入しています。KAWAPICの仕事は、主にこの資料の翻訳を行っています。

——反戦・反核・平和団体と言え、ほとんどが民間の市民運動グループなんですか。

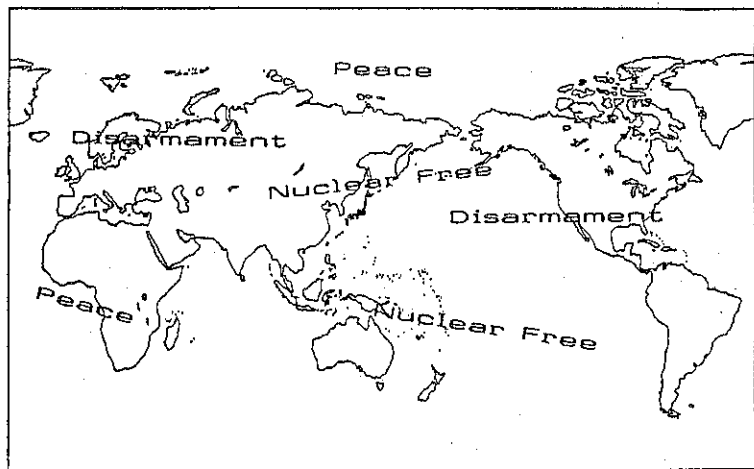
A ハイ、ただルーマニアからは政府刊行物が送られてきます。

——基本的なことを伺いたいのですが、外国の平和団体の資料を収集する意義は何ですか。

A 政治的な言い方になることは避けられないのですが、やはり

います。しかしながら、反核平和を願う市民グループは、それぞれの国の中におしこめられ、分断されていて、運動も孤立化している状況にあります。つまり、平和を希求する目的は、各国仲良くしようということなので、グループ間も国際化しなければならぬということでしょう。

また、日本は特に国際派は弱いイメージがありますので、なかなか国際的な平和の力になり



世界中で権力を握っている側、つまり軍拡を推進している側は既に国際化しています。たとえば、米中ソなどの大国、欧州各国、あるいは第3世界の国々も情報や武器援助、貿易を通じてそれなりの密接な関係を持って

にくい部分があります。——今の平和運動の状況について何か意見がありますか。

A マスメディアなり、政府側の関心なりが、先進国に偏り過ぎている。それは、政治も経済もですが、第3世界にもう少し照

準を当てて欲しい。たとえば、南太平洋でフランスが核実験をはじめどんなにひどいことを行っているのか。あるいは、アフリカ諸国が日本の武器輸出三原則に注目していることや、南アのアパルトヘイト問題での日本人の名誉白人や貿易量の大きさについてもっと情報があっても良いと思います。

——情報のアンバランスがあるということですか

A ハイ、それに今平和運動を語る時、反戦反核といった観点だけでなく、各国々の抱えている問題、たとえばニュージーランドの異民族、オーストラリアのアボリジニ、ヨーロッパの反原発、アメリカのフェミニズム等、日本で言えば、在日韓国・朝鮮人、東南アジアからの移民問題等、つまり人権の問題からとらえていく必要があるということです。戦争がないから平和というのは、全く無意味ですね。

——KAWAPICの利用状況は

A KAWAPICそのものと具体的な運動とはなかなか結びつきにくいのですが、海外に行く人で、たとえば仕事の関係や研究のためあるいは運動との連帯を求める人、学生や研究者、川崎市以外の自治体関係者などが良く利用されています。

——KAWAPICの課題は何ですか。

A 現在常時5～6人の人たちがボランティアを行っています

が、もう少し人数が欲しいですね。

また、資料収集だけでなく、こちら側からも発信したいと思っています。今は、今年第4回目がアメリカのオレゴン州ユージンで行われている国際非核自治体会議のための資料（英文）を川崎市に提供しているのですが、それだけでは物足りないと思っています。

是非、平和問題に関心のある人にご協力をお願いしたいです。——最後に市政に対する提言みたいなものはありますか。

A 行政という立場から、政治的な運動を展開することは難しいと思いますので、とりえず平和資料センターの充実をお願いしたいと思います。また、平和館が建設されるそうですが、大いに期待したいと思っています。——どうもありがとうございました。

A 最後に、ちょっと個人的な意見を言っていていいですか。

——ええどうぞ

A おもいつきの話として聞き流して結構なんです。一つは、アフリカの人を集めて平和に関する集会を持ちたいと思っています。理由は、先にも述べたように、アフリカの情報が少ないという点からです。自前の情報網を作る必要があると思います。

もう一つは、笑い話みたいなのですが、今東京の土地が高騰

して、各国の大使館の人たちがアップアップしているのをご存じでしょう。そこで、たとえば川崎に大使館団地みたいなものを作ると面白いんじゃないか。川崎は地理的にも恵まれていますし、また東京ほど国などから縛られて身動きできなくはない。第三世界の国々の大使館業務を行うビルなどを作れば、それはいい意味での国際化につながるんじゃないか、そんなにカネも労力もかからないと思うんだけど。



## 「ザ・韓国」

——韓国の新しい世代の意識を探る——

講師 李鐘元 東京大学法学部助手  
日時 4月21日(木) 午後3時～5時

場所 川崎市労働会館5階講堂  
ソウルオリンピックも近づき、韓国は大いなる変貌を見せている。民主的選挙で大統領に選出された盧泰愚政権は、国際政治に認知された民主国家としてどう運営しようとするのだろうか。また、アジアNICSの旗手としての韓国経済はどうなっていくのだろうか。

一方、南北分断国家としての緊張は決して緩んでいない。

在日韓国・朝鮮人問題も含めて、複雑な関係を持つ近くて遠い国韓国。若い世代との交流を通じて得た話をもとに、今の韓国的一片を描き出す。

## うたぎのどこ

桜の花が街を彩る頃、ピカピカの新入生が校門をくぐっていく。臨教審答申を審かに見るまでもなく、教育の右傾化は進んでいる。これから何年となく、教育を受けなければならぬ子供達は、どうなっていくのだろう。傍観者ではいられない焦燥感がある。

「日の丸・君が代」が、学校で問題になっている。映画「ゆんたんぞ沖繩」での読谷高校の卒業式のシーンが忘れられない。思想的な問題はともかく、「日の丸・君が代」を押し付ける側のいけない点は、理に適った考え方をしていないのではなにかということである。

公務員は、採用時に日本国憲法を尊重する旨の宣誓を義務づけられるならば、違憲の疑いのあるものを推進することは、公務員法に違反することになる。国の思惑や文部省の方針がどうであろうと、象徴天皇制下に「日の丸・君が代」が適しいのかどうか、公務員一人一人の判断が要求されているのである。

違憲の疑いのあるものは、まずやらない。この単純な姿勢が今必要とされている。

# 自治研 センターニュース

1988. 5. 16

No. 67

発行責任者 深堀義孝

川崎地方自治研究センター

電話 044 (244) 7610

## わが町 かわさき どんな街

第1回川崎自治研究集会があります

日時 6月3日(金) 午前9時～午後4時30分

場所 労働会館3・4階

主催 全川崎労働組合協議会(川労協)

後援 川崎市・川崎地方自治研究センター

日程

	時 間	テ ー マ	報 告 者(講師)	会 場
開会次第	9:00~9:15	主 催 者 挨拶	森 山 議 長	労働会館4F第3会議室
全体集会	9:15~10:45	I 21世紀を展望した川崎の街づくり	龍 田 浩 (企画調整局企画課長)	" " "
	11:00~12:30	II 川崎市財政の現状と課題	落 合 久二郎 (財政局財政課長)	" " "
分科会	13:30~15:00 (問題提起)	I 都市政策と市民自治	新 藤 宗 幸 (立 教 教 授)	" " "
	15:15~16:30 (自由討論)	II 交通総合体系の確立	橋 本 敏 男 (都市整備局計画部長)	" " 第2会議室
		III 福祉と医療の充実	漆 原 明 (民生局福祉部長)	" " 第1会議室
		IV 水と緑の保全	鵜 飼 まもる (川水労行対部長)	" 3F第2研修室
			野 地 富 久 (環境保全局緑政部長)	
V 文化・教育・スポーツの振興	内 田 信 之 (川教組副委員長)	" 4F特別会議室		

### 「すこやかに育てよう 川崎の子どもたちを」



財団法人川崎教職員会館と自治研センターが「すこやかに育てよう川崎の子どもたちを」を2月に発行しました。

子を持つ親にとって、どう良好な教育環境をつくっていくか

は、いつの時代でも大きな悩みとなっている。

とくに、水・緑・土・生き物といった自然環境に恵まれない都会に住む子どもたちは、いくら伸び伸び自由奔放に育てようとしても、できない話である。

情報の氾濫、管理化、そしてなにごとにもカネのかかる世の中で、子どもの教育環境はますます悪化しているといっても過言ではない。

子どもの教育は、学校・家庭

・社会、それぞれの環境がより良いものとして絡みあってこそ、すこやかな子どもとして育っていく。

その意味で、この小冊子は、家庭教育と川崎の教育に関する資料を掲載し、広く市民に利用されるものとして編まれました。

是非、ご一読されいるいるな所で話し合われる材料となることを期待します。



### 「生産共同体企業の実験」

講師 岡田淳三郎氏(類設計室社長)

日時 5月25日(水) 午後3時～

場所 電工ビル2階会議室

川崎市川崎区宮本町3-4-5

安保・全共闘、60年代、70年代の反体制運動の郷愁的な響きをもつ。

当時のさまざまな思想的経験の中から、自ら仲間を糾合し、上下関係のない企業運営、自主管理的な事業体経営をめざし、

着々と実績を上げている類設計室。

管理化されたタテ社会の中で、その常識を打ち破る話に、何か心が動かされるに違いない。

你好,

How are you?

### 語学講座盛況

3月に募集しました語学講座は、あいかわらずの人気。英会話4講座には71人、中国語には13人が、それぞれの教室で熱心に勉強。

ホフマン・モーガン・区先生も、その熱心さに舌を巻いています。

国際化は、まず言葉から。最後までその熱心さで、頑張ってください。

# モーツと酪農 ヒビーンと北海道

——中標津町酪農青年との

川崎ふれあいの会——

でっかい北海道のまん中、あのムツゴロウ王国にも近い中標津町。

おだやかな牛の群れと、果てしなく広い牧場。まさに、カンントリーライフのすべて、人間生活のルーツがありそう。でも、ちょっと冬の寒さなんかキビシかったりして、でも、それも人間的じゃん。

こんなメルヘンと生活のルネッサンスを、味わってみませんか。

中標津町酪農青年との交流、話してみるのオモシロソウ。

とき 6月11(土)~12(日)  
ディナーパーティ、ディズニールンドで交流。  
申込 牧場に夢見る北海道の大自然と動物大好きな独身女性  
期間 5月10日~5月21日まで  
申込先 (1) (社)川崎地方自治研究センター  
〒210 川崎市川崎区富士見2-5-2 労働会館5F 044-244-7610  
(2) 中標津町農業委員会  
〒086-11 北海道中標津郡中標津町丸山2丁目22番地 01537-3-3111

いずれかへ電話か手紙で  
主催 社団法人川崎地方自治研究センター  
中標津町農業後継者対策協議会



友よ、書を読み街へ出よう

## 読書会

題材 「雨の王ヘンダーソン」  
ソールペロー著 中公文庫  
日時 5月23日(月)午後6時~  
場所 市労連会館4階会議室  
講師 酒井成美氏(『デルタ』同人)

※ テキスト希望者の方は、自治研センターで5%割引で頒布します。

## 研究会

題材 「NICS-工業化アジアを読む」  
涂照彦著 講談社現代新書  
日時 5月30日(月)午後6時~  
場所 市労連会館4階会議室  
講師 野上和裕自治研センター専任研究員



## この指とまれ

### 「教育改革」の動向を憂えて」の署名運動

初任者研修制度の導入をはじめ、臨教審答申を受けた「上からの教育改革」は、いよいよ法的根拠をもち具体化されようとしています。88年は、まさに「教育臨調元年」と言えます。

このような時、1971年当時の中央教育審議会答申の「教育改革」に反対して結成された教育運動団体である民主教育をすすめる国民連合(代表委員は、家永三郎、大田堯、丸岡秀子氏など)は「教育

改革」の動向を憂えてというアピール発しました。

このアピールに賛同する人たちの署名を求めています。

民主教育をすすめる国民連合  
千代田区神保町2-20 第2富士ビル4階  
電話 03-261-9739

### よみがえれ!!ニヶ領用水

——ニヶ領用水の再生を考える市民の会——

身近な環境であり、川崎のルーツでもあるニヶ領用水を私たちの

手で再生しましょう。

連絡先 〒214 川崎市多摩区  
中野島853 I・D・A  
建築総合研究所 井田安弘  
TEL 044-932-1366

### 横須賀をトマホーク艦(ファイブ、バンカーヒル)の母港にさせない県民運動

〒211 川崎市幸区古市場1780青柳精三方  
TEL 511-4863  
大倉法律事務所(横須賀)  
TEL 0468-22-0287

## うたぎのどこ

和歌山県の日高原発建設計画の阻止の報を聞いた。関西電力が、福井県を中心とした日本海側の原発群から、太平洋側に立地を求めた拠点としてあった所だそうである。

四国の伊方原発では、全国から老若男女が集まり、反原発運動の一大会展が展開された。

広瀬隆氏の「危険な話」(八月書館)が、ロングセラーを続けている。氏の講演会が全国各地で開かれ、盛況だそう。広瀬氏のありったけの知識を披露し、何時間もぶっ通しで話す迫力ある講演を聞いてみたいと思う。

発電力に占める原発分の料金を支払わない運動もあると聞く。

今や、反原発運動は、労働運動、市民運動を超えた強力な運動として注目されている。クリーンエネルギーとして宣伝されている電気が、実は原子力汚染だけでなく、火力の大気汚染、水力の自然破壊等、大きな犠牲の上に成り立っていることをつい忘れがちである。

電気を通じて得られた便利で快適な生活を否定し、昔の生活に戻ることはできにくい。このままではいけない。省ることは必要だろうか。真夏のクーラーと高校野球の時は、電気需要のピークになる。猛暑から逃れ、テレビを観ながらビールを一杯。日常生活の至上の喜びの一つではあるが、それが原発の危険性と裏腹にあることを理解するのは難しい。

スリーマイルやチェルノブイリ、その事故の悲惨さは、ヒロシマ・ナガサキの悲惨な歴史と同じものがある。平和と反原発、共通の課題であることは言うまでもない。

(タイガ)

# 自治研 センターニュース

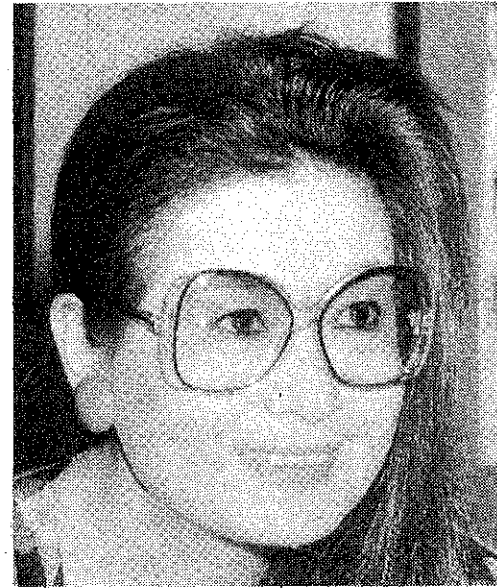
1988. 6. 15

No. 68

発行責任者 深堀義孝  
川崎地方自治研究センター  
電話 044 (244) 7610

## 第2回かわさき自治研

川崎市職員労働組合 主催  
自治研センター 後援



山崎朋子氏

第1日目全体集会 6月27日(月)午後1時から市労連会館5階講堂

記念講演 山崎朋子氏(女性史研究者)

『サンダカン八番娼館』の作者  
『アジアの女性・日本の女性』

高橋進東京大学教授

『アメニティ川崎』を考える

基調提起「女性参加のまちづくり」

第2日目分科会 6月28日(火)午前9時から

	第1分科会	第2分科会	第3分科会	第4分科会	第5分科会	第6分科会	第7分科会	第8分科会
テーマ	かわさきの町再発見	水の安全性	健康と労働	食品と健康	反戦・平和	女性の権利	これからの高齢者対策のあり方	キャンパス都市づくりと生涯学習
討議の柱	・川崎市北部地域の開発、南部地域の再開発を考える ・おんなの目からまちづくりを考える	・飲み水から下水まで、市内の河川などの水の安全性を考える	・メンタルヘルズ(心の病)の予防 ・健康増進	・無添加、安全な食品とは	・沖縄の現状 ・チェルノブイリ事故から反原発へ	・職場における女性の権利 ・女性差別を考える	・保健所を中心としたリハビリ及び予防教室 ・老人保健施設と在宅介護 ・老人看護と医療の状況	・キャンパス都市構想 ・川崎の教育改革
内容	・新百合丘駅周辺、マイコンシティ、E.S.P.(神奈川サイエンスパーク)見学	・川崎の湧水をめぐって水質汚染を考える	・川崎市職員の健康状況	・部老名畜産、中津ミートを訪ねて	・沖縄平和行進報告 ・ビデオ「チェルノブイリクライシス」	・参議院議員千葉景子さんを交えて ・職場の女性差別	・高齢者対策を現状から考える	・キャンパス都市構想を考える ・川教組「校区からの教育改革」
会場	麻生区役所ほか	長沢浄水場ほか	労働会館	部老名畜産ほか	労働会館	労働会館	特別講義 太陽の園ほか	労働会館

知され、向上しにくいのだろうか。

婦人運動、反差別運動、フェミニズム等、直接的な権利拡大運動も含めて、地方自治の観点から女性参加を考える機会としたい。

集約会議 午後3時30分から  
産業文化会館大会議室  
問い合わせは  
川崎市職員労働組合へ  
TEL 200-2600



### 「ジャパゆきさんを考える」

講師 井上礼子氏(PARC代表)  
日時 6月22日(水)午後3時から  
場所 産業文化会館 第6・7会議室(3F)  
川崎の街にも、東南アジア系の人たちを多く見かけるようになった。  
スナック・パブ等風俗産業に働く若い娘たち。中小の下請け工場で働く若者たち。円高、経済大国ニッポンが、国際的な労働需給関係の中で、あるいはコスト感覚と欲望充足のため、これらの人々を雇い、酷使している状況はマスコミ等によっても明らかにされている。  
そして、もう一つ、東北・四国等過疎の地で、後継者不足に悩んだ末に、フィリピンなどの東南アジア系の花嫁を迎え入れるところも生まれた。この「ジャパゆきさん」と呼ばれる人たちと、その関係者たちに対し、賛否両論がうずまいている。  
人権とそれに絡んだどうしようもないところからきた国際化の問題を、私たちはどう考えねばならないのだろうか。

### 「友よ、書を読み街へ出よう」

#### 読書会

題材 「日記の虚実」  
紀田順一郎 新潮社  
日時 6月20日(月)午後6時から  
場所 市労連会館4階会議室  
講師 酒井成美氏(『デルタ』同人)

#### 研究会

題材 「東京に原発を！」  
広瀬隆著 集英社文庫  
反原発運動が昂揚している。一方、原発推進側の攻撃も、カネにまかせてマスコミ広告、原発見学等、さらには警察権力を導入してすさまじい。はたして、原発は安全なのか、あるいは、エネルギー源として必要なのか。思想的なもの、科学的な観点から研究する必要がある。反原発運動の中心的論客、広瀬隆ブームの原点を読む。  
日時 6月27日(月)午後6時から  
場所 市労連会館4階会議室  
講師 野上和裕自治研センター専任研究員



昨年はいじめて開催された市職労主催のかわさき自治研。「行動する自治研」と銘打ち、2日間にわたって、市民、市職員延べ500人の参加者を得た。

今年の基本テーマは、「女性参加のまちづくり」。国連婦人の10年以後、女性の権利拡大、男女共同社会が唱われて久しいが、なかなかハード面でもソフト面でもまちづくりに女性の意見がとり入れられているとはいえない。

生活者としても生産者としても、女性が半数を占めているという事実は古今東西不遍である。なのに、なぜ社会的に女性の地位が認

# 教育を語る 未来を語る

## すばらしい川崎のために

日本社会教育学会 6月集会(川崎集会)  
6月18日(土)~19日(日) 川崎市中原市民館・大ホール

### 日本社会教育学会六月集会(川崎集会) プログラム

【第1日】 6月18日(土) 13:30~16:30 □受付 13:00

研究主題 「社会的に不利益を受けている人々と社会教育」

○司会 宮坂広作(東京大学)・神田道子(東洋大学)

○報告者 ① 山口 真(流通経済大学)

② 黒沢惟昭(神奈川大学)

③ 朝倉征夫(早稲田大学)

○発言者 ① 藪 重 度(川崎市ふれあい館)

② 山崎信喜(川崎市産業文化会館)

#### 研究内容

- ・社会的に弱い立場に置かれている人々の社会教育を公的にどう保障するのか。
- ・社会的な弱者の教育の権利をどうとらえるのか。
- ・川崎市の在日韓国・朝鮮人の教育と身障者青年教室と社会人学級について

○問合せ先 ・日本社会教育学会事務局 ・川崎集会実行委員会事務局

東京大学教育学部内

☎ 03(812)2111 内 3976

社会教育課成人教育係内

☎ 044(200)3304 伊藤長和

\*一般参加の申込は川崎集会実行委員会事務局までご連絡下さい。参加費は1500円です。

○川崎集会実行委員会 ・川崎地方自治研究センター・川崎市職員労働組合・川崎市教職員組合

### 熱心な参加者が集う

初めての試みである川労協主催の川崎自治研集会在、6月3日(金)に労働会館で開催された。加者が、川崎市の行政、学者研究グループの話を聞き、もじどおり川崎の自治を研究する集会となった。

100名をこえる熱心な参

【第2日】 6月19日(日) 9:30~12:00 □受付 9:00

研究主題 「情報化社会と社会教育」

○司会 長澤成次(千葉大学)・野々村恵子(練馬区教育委員会)

○報告者 ① 鈴木敏治(茅ヶ崎市小和田公民館)

② 林辺 浩(東京都教育庁)

③ 森崎震二(専修大学)

#### 研究内容

- ・情報化社会と公民館
- ・情報化社会論
- ・生涯学習情報センター構想

【第2日】 6月19日(日) 13:00~16:00

研究主題 「現代の都市問題と社会教育」

○司会 大串隆吉(東京都立大学)・古橋富美雄(川崎市総合教育センター)

○報告者 ① 岩淵英之(川崎地方自治研究センター)

② 海老原治善(東京学芸大学)

③ 安藤八重子(ラジオ日本)

#### 研究内容

- ・都市の計画論と社会教育
- ・都市の自治と社会教育計画論
- ・「いきいきとした川崎の教育をめざして」、「キャンパス都市川崎の創造」と、「校区からの教育改革」の接点はどこにあるのか。

### いいカップル できたかな

6月11日(土)、12日(日)の2日間にわたって、北海道中標津町の酪農青年と川崎市在住の女性とのふれあいの会が行われた。

これは、酪農事業の後継者対策として中標津町が行っている事業の一つで、川崎側の受け入れ先として自治研センターも共催して行ったもの。

10人の酪農青年と16人の応募女性が、ふれあいパーティ、ディズニールランドで交流し、お互いの理解を深めた。

ギスギスした都会の生活から離れ、大自然の中で生活したいと思う女性が数多くいるということがあきらかにされたわけで、川崎の自治を考える上で良い勉強材料にもなった。

夏には、中標津町で酪農体験を行うツアーも企画されていますので、是非積極的な応募をお願いします。

また、今後中標津町との物資交流・人的交流等行政レベルでも検討されているようで、都市と農村の相補い合う交流が期待できそうだ。

## うたぎのどこ

うっとおしい梅雨の季節になった。暑いよいうな寒いよいうな、体の汗がジトッと衣服をへばりつかせるいやな時期だ。

外出して雨に濡れたり、汗をかいたりして不快になるより、なるだけエアコンのきいた事務所で、喫茶店で、クーラーの除湿をかけた我が家でジッとしたいと思う。寒い冬と同様、動きが鈍くなる。

ところで、先日米ソ首脳会談がモスクワで行われた。先年のゴルバチョフ訪米について、レーガンが訪ソしたものだ。核軍縮を中心にした交渉は、大きな成果が上がらなかったようだが、お互いのトップが訪問しあったことに大きな意義が見出せる。

ソウル五輪をめぐる韓国・北朝鮮の動きは、お互い離反する方向になっている。残念だ。社会党代議士がはじめて訪韓した。社会新聞問題で一悶着あったが、行けたことが一つの成果だ。

非政治的な言い方で恐縮だが、動きがあることはいいことだと思ふ。動くことはそれだけでも評価されると思ふ。

市民レベルの動きは活発になったが、まだまだ不十分だ。5・29のヨコスカが思ったほど人数が集まらないなと思つた人は多いと思ふ。情報が多くなり、みんな評論家にはなるが、なかなか運動する気にはならない。

言うは易し、行うは難しいというが、やってみなければわからない。やってみようと思ふ人が少なくなるのは淋しい。

一生懸命動いたあと汗をかいたあとの冷たいビールの旨さは至上である。梅雨空を吹き飛ばして汗をかきましょ。当面は、消費税問題だ。

(タイガ)



# 自治研 センターニュース

1988. 7. 11

No. 69

発行責任者 深堀義孝  
川崎地方自治研究センター  
電話 044 (244) 7610

## 自治研センター 理事会報告

87年度第1回理事会が、6月29日に市労連会館5階会議室で開催されました。

岩淵理事長の挨拶の後、深堀常任理事の進行で議事が進められました。和田事務局長から昨年12月の総会以後半年間の活動報告がなされました。研究会、読書会の活動、各種集会の後援、講演会の開催、中標津町との交流、外国語講座の開講等の報告がありました。

つづいて協議事項に入り、役員等の一部変更と補正予算案の提案がありました。役員等の変更につ

いては、野上和裕専任研究員が、7月から都立大学助教授に就任するため、専任研究員を退任し、代りに佐藤紘毅さんが専任研究員に再着任しました。また、川教組の役員変更に伴い、事務局次長が川辺次郎さんから内田一洋川教組執行副委員長に、監事が高橋弘さんから上杉孝生活部長に変更になりました。

補正予算案の主な内容は、収入の部では、川崎市から海外研修シンポジウムの委託を受けた関係で委託事業費が増額され、支出の部

では、研究事業費、調査事業費、自治啓蒙事業費それぞれの諸謝金を減額し、会議費の増額を踏ったところです。協議事項は、満場一致で承認されました。

最後に補足として北海道の中標津町との交流が行政レベルで深まり、センターの橋渡し役の成果があったこと、さらにはイギリスのシェフィールド大学との交流の呼びかけがあり、行政と連携して国際化の足がかりとしたい旨の報告がありました。

# ワクワク 北海道

——中標津町青年との交流、酪農体験  
ツアー募集——

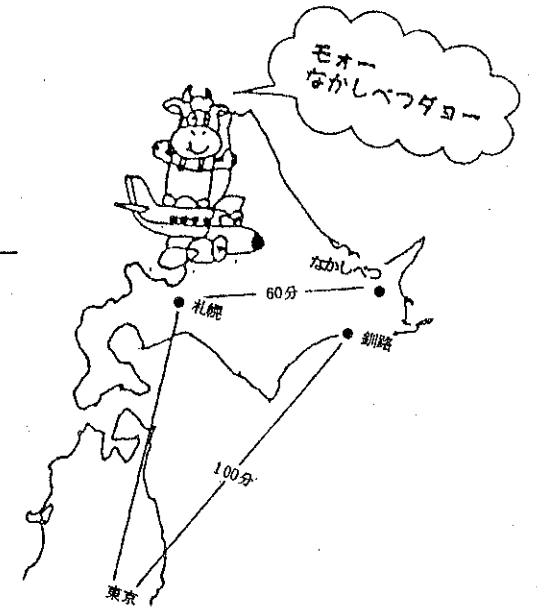
6月の中標津町の酪農青年とのふれあいの会は、新鮮な感動となごやかな交流のうちに行われました。

今度は、あの大自然の北海道の中で、酪農にふれ、大地を駆け巡り、心身をリフレッシュしてみませんか。

日程 8月12日(金)～15日(土)3泊4日

- 第1日 羽田→釧路→阿寒湖→摩周湖→開陽台→森林公園(野外交流パーティ)→酪農家(宿泊)
- 第2日 酪農家(酪農体験)→町役場→標津町→羅臼町→知床峠→養老牛温泉(宿泊)
- 第3日 養老牛温泉→町役場→根室市→新酪農村→町役場→酪農青年との交流パーティ→市内ホテル(宿泊)
- 第4日 市内ホテル→弟子屈町→鶴居村→釧路→羽田

費用 6万円



参加対象 独身女性20名

申し込み 1) (社)川崎地方自治研究センター  
〒210 川崎市川崎区富士見2-5-2  
労働会館5階

TEL 044-244-7610

2) 中標津町農業委員会

〒086-11 北海道中標津郡中標津町  
丸山2-22

TEL 01537-3-3111

## 活動報告 1987.12.10～1988.6.28

第3回総会(1987.12.10)以降の活動は次のとおりです。

1987年

- 12月10日(木) 第3回総会(いさご会館)
- 12月14日(月) 読書会(20世紀イギリス短編選下)
- 12月15日(火) 群馬県中高年雇用福祉事業団(玉村町)調査訪問
- 12月17～19日 全国自治研究センター交流集会(湯布院)
- 12月17日(木) 定例学習会(ギリシャ・エルギン・マープル)ギリシャの伝統と文化(市労連会館)
- 12月19日(土) 第3回アムニティ川崎政策研究会(福祉行政について)市労連会館
- 12月21日(月) 事務局会議  
研究会(政治のことば)
- 12月23日(水) 調査委員会(市労連会館)  
研究委員会( " )  
学習委員会( " )  
出版委員会( " )  
英会話講座(1988年3月まで)  
中国語講座( " )

1988年

- 1月7日(木) 市職労旗びらき(市労連会館)
- 1月8日(金) 川崎協赤旗びらき(労働会館)
- 1月9日(土) 生活クラブ生協(神奈川)新年会
- 1月10～12日 「アムニティ川崎」研究班事前調査(島根県)
- 1月12日(火) 川崎クラブ生協新年会

- 1月18日(月) 読書会(家族のいる風景)  
自治研センター・ニュースNo.63発行
- 1月23日(土) 第4回アムニティ川崎政策研究会(環境行政について)
- 1月25日(月) 研究会(私の見たペレストロイカ)
- 1月28日(木) 定例学習会(INF条約の現状と展望)
- 2月1日(月) 自治研センター・ニュースNo.64発行
- 2月10日(水) 第37次川崎市教育研究会
- 2月22日(月) 読書会(帝都物語第3巻)
- 2月25日(木) 定例学習会(ペレストロイカってなんだ・ソ連が変わる)
- 2月29日(月) 研究会(ごく普通の在日韓国人)
- 3月7日(月) 第5回アムニティ川崎政策研究会(経済情勢について)
- 3月10日(木) 自治研センター・ニュースNo.65発行
- 3月14日(月) 読書会(チュウサン階級の冒険)
- 3月23日(水) 川崎市職員海外派遣研修のつどい(いさご会館)
- 3月28日(月) 川崎の雇用を考えるつどい(市民局主催・センター後援)
- 研究会(まちづくりの発想)
- 3月30日(水) 定例学習会(コメ国家黒書)
- 4月～9月 英会話講座(入門・初級1・初級2・中級)開始  
中国語講座開始
- 4月11日(月) 自治研センター・ニュースNo.66発行
- 4月18日(月) 読書会(主体の容容—現代文学ノート)
- 4月21日(木) 定例学習会(ザ・韓国)
- 4月25日(月) 研究会(コメ国家黒書)
- 5月10日(月) 中標津町酪農青年とのふれあいの会申込開始

- 5月14日(土) 海外派遣研修第1次選考
- 5月16日(月) " 第2次選考
- 5月21日(土) 自治研センター・ニュースNo.67発行
- 5月23日(月) 中標津町酪農青年とのふれあいの会申込締切
- 5月25日(水) 読書会(雨の王ヘンダーソン)
- 5月28日(土) 定例学習会(生産共同体企業の実験)
- 5月30日(月) 中標津町酪農青年とのふれあいの会説明会(労働会館)
- 5月31日(火) 研究会(NICS工業化アジアを読む)
- 6月3日(金) 神奈川自治研センター交流集会  
川教組定期大会(6月1日まで)  
第1回川崎自治研集会(労働会館・川労協主催・センター後援)
- 6月11日(土) 中標津町酪農青年とのふれあいの会(ニューハットヤ)
- 6月12日(日) " (東京ディズニーランド)
- 6月16日(木) 自治研センター・ニュースNo.68発行
- 6月18日(土) 海外派遣事前研修会(センター協力)
- 6月18～19日 教育を語る・未来を語るすばらしい川崎のために川崎集会
- 6月20日(月) 読書会(日記の虚実)
- 6月21日(火) 海外派遣事前研修会(センター協力)
- 6月22日(水) 定例学習会(アジアからの出稼ぎ労働者の実態と問題)
- 6月25日(土) 海外派遣事前研修会(センター協力)
- 6月27日(月) 研究会(東京に原宿を)
- 6月27～28日 第2回かわさき自治研(女性参加のまちづくり・市職労主催・センター後援・市労連会館他)

## 友よ、書を読み街へ出よう

### 読書会

「スローターハウスファイブ」

カート ヴォネガット ジュニア著 ハヤカワ文庫

日時 7月18日(月)午後6時

場所 市労連会館4階会議室

### 研究会

「参謀の昭和史——瀬島龍三」

保坂正康著 文藝春秋社

日時 7月25日(月)午後6時

場所 市労連会館4階会議室

瀬島龍三、かつて関東軍の参謀であったこの人物が、商社等の実業界で名を上げ、政界にも大きな影響力を持っている、中曾根前政権のブレーンとして、臨調行革、臨教審を主導し、その隠然たる力は私たちの日常生活にとっても無視できない。

敗戦時の生と死のはざまを生き抜き、日本国家の黒幕としてのし上がったこの人物の生きざまを見、見事な復活を許した戦後日本の社会を読む。

### 「競争経済から共生社会へ」

古沢広裕相模女子大学講師

日時 7月27日(水)午後3時

場所 中原市民館3階第3会議室

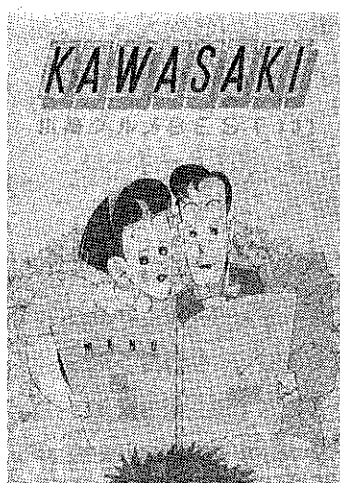
豊かな社会といわれているが、個々人の生活はそんなにゆとりのあるものとはなっていない。企業間競争のシ烈さは、国レベルでの貿易摩擦、個人レベルでの就業問題につながり、ストレスのたまる社会となっている。

そんな中で、人と人との新しいつながりを求める声が上がっている。地域の中で、あるいは地域を越えて共に生き、共に楽しむ人間関係が求められ生まれている。

「共生」この新しい概念を理解しようと思う。

## お役に立てば——川崎市政資料紹介——

### 「川崎グルメBEST101」



川崎市観光協会(経済局)から発行された小冊子。

巻頭文にもあるように、川崎駅周辺は、アゼリア、ルフロン、チネチッタの誕生によって、それまでの灰色のイメージ

を払拭し、街づくりの基調カラーとしての白色に一変した。

駅ビル、テクノピアの完成、北口開発、街路の完全モール化が進めば、さらに変わる。

街が変われば人も変わり、評価は別としてゲタバキ、あんちゃん・ねえちゃんから、マブでおしゃれな若者が増えた。外人も多くなった。「男女七人秋物語」も撮られた。

川崎の街が変われば味も変わったというのがこの本。「大衆的」が味も値段も相場だった川崎にも、東京や横浜、関西か

らの味で売る一流店が出店するようになり、いわゆるグルメ党には喜ばしい街になった。

シンプルなデザインと、シャレた文章、軽快な編集のこの本は、花丸及第点を上げられる。

個人的な感想を付け加えれば、新規参入、一流店揃いの中で、ドッコイ川崎は生きている、大衆店もガンバっているぞというところもとりあげている点が好感がもてる。

うまい、やすい、これこそ川崎グルメの原点だろう。

## うたぎれどこ

川崎市の助役が解任された。自民党幹部をも巻き込んだリクルートの株疑惑と柿生の土地購入事件が表面化したからだ。これをめぐって議会内外の攻防が、次の市長選もからめて、久々のパフォーマンスタウンとなっている。おかげで市役所が大混乱だ。

しかし、マスコミや各政党が煽っているのはうらはらに、市民の動きは一部政治的なものしかないように見える。市民レベルではたんなる話題にすぎないようだ。

いったい市政って何なのだろう。地方自治って何なのさ。かつての市民自治、国と対決する地方自治の意気地はどうしたんだらう。こんなときだからこそ、市民自治の原点に戻るべきではないのだろうか。

市役所内部に職員倫理高揚対策委員会ができた。権限集中を排除するために、機構改革、人事異動が行われるようだ。それは良い評価しよう。努力は評価しよう。しかし、何か欠けているのではないのか。

市民の信頼を回復するためには、相変わらず市政と市民とは違うものであるという立場のものだ。市政が

市民とともに行動できるという思想が欠如している。短兵急な解決は、議会、マスコミ受けはするだろうが、市民にとってはシラケルばかりだ。誰のクビがとほうが、左遷されようが、どんな組織ができようが、それは直接市民には関係ないことだ。

地下街アゼリアから川崎駅上改札口までなぜ一〇一段の階段を昇らなきゃいけないのか。テクノピア等の高層ビルのおかげでビル風が強く歩みにくい。防災はどうなっているのか。ハイテク産業の公害たれ流しは大丈夫なのか。黒川の自然破壊は進むのか。縦貫道はどうなるのか。キャンパス都市構想って何なのか。二ヶ領はなぜ汚いのか。在日外国人差別はなくなったのか。こういった市民の声に誠実に答えを出していくことが市民の信頼に応え、まさに行政の自浄能力があることの証明になる。

市民自治を忘れた革新自治体は、うたを忘れたカナリヤだ。長期政権による内部崩壊論は、噂話としてはおもしろいが、大した意味はない。

革新自治体川崎の大義をもう一度確認しようじゃん。

(タイガ)

# 自治研 センターニュース

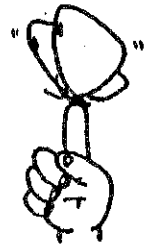
1988. 8.10

№70

発行責任者 深堀義孝

川崎地方自治研究センター

電話 044 (244) 7610



## この指とまれ

### 仮称地方自治制度研究会のメンバー募集

自治研センターでは、川崎の新たな革新市政の政策づくりに向けて、アメリ  
ティ川崎政策研究会を、新藤宗幸立教大  
学教授、高橋進東大教授、坪井善明北大  
教授を中心に進めています。「アメリ  
ティかわさき」の政策骨子も、既に素案  
が作成され、発表の段階を迎えています。

革新市政の意義は改めて問うまでもな  
く、市民自治、地域自治を徹底させる中  
で、民主的な地方自治を確立し、市民が  
平和で安全で快適な生活を営めるよう  
にすることにあります。

革新自治体が、かつての勢いをよそに  
衰退しています。その原因は、なかなか  
簡単に言い尽くすことはできませんが、  
産業構造の転換、社会の推移に対応しき

れなかった革新自治体の自壊過程である  
という見方もできると思います。

そんな中で、自治研センターでは行政  
主導でない市民自らの政策づくりをめざ  
し、仮称地方自治制度研究会を発足させ  
たいと思っています。

21世紀を超えた中長期的な展望と、そ  
して緊急に解決しなければならない問題  
も含め、川崎の地方自治の確立に向け、  
お互いの学習、発表、提言の場をめざ  
し、会員・市民のみなさんの積極的な参  
加を期待します。

問い合わせ 川崎地方自治研究セン  
ター

TEL 244-7610

## ピープルズ・プラン21世紀

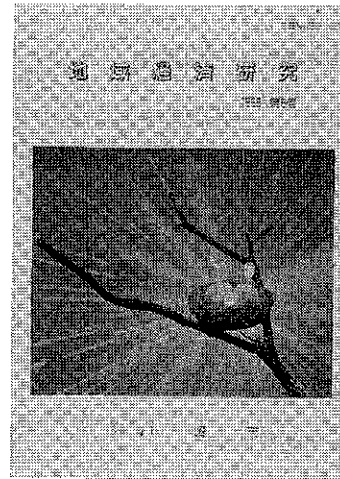
### アジアとともに未来をつくる——実行委員募集

アジア・第三世界の人々とともに歩むことのできる私たちの  
オールタナティブを、具体的に構想し、実現に向けての歩みを  
開始しようというものです。1989年8月に向け、各地域、  
各職場で同じようにオールタナティブを運動している人々の協  
力を得て、国際会議、地域調  
査、国際共同調査、文化創造の  
場を作り上げていく計画です。

問い合わせ ピープルズ・プラン21世紀よびかけ人会議 TEL 03-291-5901

## お役に立てば——川崎市政資料紹介

「地域経済研究」 №6



経済局から毎年1回発行され  
る、川崎の地域経済を考える研  
究誌だ。

今年3月に発刊された第6号  
の特集は、「産業構造の転換と  
地域経済の自立」。

かつての重化学工業都市から  
ハイテクを中心とした高度情報

産業都市に、川崎は生まれ変わ  
ろうとしている。マイコンシ  
ティ、K・S・P、テクノピア  
等なじめない横文字だが、川崎  
が変貌しつつある様態が理解で  
きる。

民間資本と国・県・市政との  
連携を深めた街づくり。このこ  
とについて議論はあろうが、雇  
用確保、地域経済の活性化によ  
る市民生活の安定・定着は、都  
市経営の大きなテーマであるこ  
とは事実だ。

市経済局が7月に開館した産  
業振興会館。ハイテク産業振興  
の市当局の拠点として造られた。  
先日、オープン記念としてテク  
ノトランスファー'88が開かれ  
たが、川崎市周辺の大中小のハ  
イテク関係の企業が集まり、各

社の自慢の製品の展示、デモン  
ストレーションが行われていた。  
生活の質の向上が要求され、そ  
こにエレクトロニクスを中心に  
した軽薄短小の産業が入りこむ  
という構造が如実に示されてい  
た。

このようなことを背景に今号  
が編まれている。研究者・企業  
人・評論家・行政当局等あらゆる  
角度から言及している本誌は  
読み応えがある。

ただ一言注文をつけさせてい  
ただければ、論争を避けている  
面がみられる。たとえ、行政の  
基本施策であっても、そこには  
必ず反対意見はなしとしないだ  
ろう。反対論も掲載しながら、  
考えていく誌となれば、さらに  
読み応えがあるものとなる。

## ——食糧自立を考える国際シンポジウム——

8/26~27 八王子・大学セミナーハウス

諸農産物輸入自由化に対する圧力は日増しに強くなり、その  
波はついにコメにまで及んできました。そして、農業のみなら  
ず、私達の生活基盤、地球全体の環境までもが、破壊しつくさ  
れようとしています。もう、経済・社会のあり方そのものを、  
根底から問い直さなければならない時期に来ています。

今こそ、生産者・消費者・研究者、そしてアメリカ人もタイ  
人も、みんな手を取り合って、建設的な話をし合おうではあり  
ませんか！食糧自立に向けて——

問い合わせ先 〒100 東京都千代田区有楽町1-13-2 農林  
中金ビル(財)協同組合経営研究所 気付

TEL 03-791-9807

## T. G. A. L. 募集

川崎市で行っている海外研修経験  
者を中心に、川崎の国際化を進める  
会が9月発足に向け準備作業が進ん  
でいる。名称も仮称T. G. A.  
L. (ティーギャルと呼ぶ、Think  
Groval Act Localの略)とし、姉妹  
都市交流や市内の外国人問題を考え  
ていこうという会だ。同会は参加メ  
ンバーを募集している。詳細は次号  
に掲載。



# グラスノスチ No. 1

——情報・知識・人の輪は  
自治研センターの宝——

自治研センターでは、選任研究員を中心に図書購入が行われています。ここに掲載されている本は、すべて公開、貸出しされていますので、気軽にセンターへ問い合わせ下さい。

TEL 244-7610

## 図書一覧表

1987年8月～		
住民自身のリーダーシップ機能	勁草書房	久常節子
自治官僚	講談社	神一行
後輩にバカにされないための 地方自治大常識集	公人の友社	現代自治用語研究会
自治体行政学入門	良書普及会	大森 彌
日本が変わり地方が変わる	〃	阿部 孝夫
おもしろ地方公務員法 雑学読本	公人の友社	地方公務員法 雑学同好会
育ち合いの保育	現代書館	石毛 英子
フランス完全ガイドブック	講談社	大出 健美 中井 由美
日本の労使関係	日本労働協会	日本労働協会
海外の都市政策事情	ぎょうせい	土岐 寛
経済白書 昭和62年版	大蔵省印刷局	経済企画庁
労働白書 昭和62年版	日本労働協会	労働 省
協同組合新論	家の光協会	石見 尚
海外労働白書 昭和62年版	日本労働協会	労働 省
原発は危険だ	自治労・ 自治労関東甲地連	自治労関東甲地 連
最新英語情報辞典	小学館	堀内 克明 他
英語図詳大辞典	〃	〃

田中支配とその崩壊	朝日文庫	朝日新聞政治部
日本 ——その姿と心——	学生社	新日本製鉄 総 能力開発部
戦後左翼の四十年	現代の理論社	安東 仁兵衛
自治体行政法事典	北樹出版	兼子 仁 関 哲夫
アメリカの地方自治	勁草書房	ジョセフ・P・ツィンマー マン
アメリカ論Ⅱ ——中南米——	日本放送出版協会	増田 義郎
地方自治制度	学陽書房	久世 公亮
英語略語辞典	研究者出版	広永 周三郎
官僚制の解剖	サイマル出版会	アソニー・タウンズ
十二本の毒矢	新潮文庫	ジェフリー・アーチャー 永井 淳訳
いま政治になにが可能か	中公新書	佐々木 毅
都市の生態学	岩波新書	沼田 真
ドキュメント・人間列島	ぎょうせい	鎌田 慧
ソ連現代政治	東京大学出版会	下斗米 伸夫
スウェーデンの社会保障	〃	社会保障研究所
英文手紙の書き方	旺文社	小川 芳男 宇井 董
世界の議会①イギリス	ぎょうせい	前田 英昭
〃 ③ヨーロッパ〔I〕	〃	石井 五郎 下田 久則
〃 ④ 〃 〔II〕	〃	石井 五郎
〃 ⑤ 〃 〔III〕	〃	岡野 加穂留
〃 ⑥ソ連・東欧	〃	木戸 蕪 皆川 柴宜弘 修

友よ、書を読み街へ出よう

8月の研究会、読書会、講演会はお休み。

### 読書会

「人は死ねばゴミになる」 伊藤栄樹著  
新潮社  
9月19日(月)午後6時～市労連会館4F

### 研究会

「男たちの意識革命」 下村満子著  
朝日文庫  
9月26日(月)午後6時～市労連会館4F



## 「くらしと女性」(仮題)

加納紀代子氏

9月22日(木)午後2時～

消費生活センター(中小企業婦人会館)

生活クラブ生協との共催

## うなぎのねどこから

先号の小文について、いくつかの意見が寄せられた。助役の小文が、それなりの反響を受けたことは嬉しいし、さらに継続してこのような問題について論議を深めていきたいと思う。

センターの立場からも意見を言わせてもらった。

解職問題と市役所内部の混乱というナマナマしい問題だけに、マスコミ報道・噂話等いろいろな意見がでてきているのだが、川崎の地方自治研究機関として当セ

## うなぎのねどこ

七月二十四日、厚木基地が人の手で包囲された。約二万七千人が、小雨の中、基地に集まり、反基地の意思表示をしたわけだ。昨年の沖繩の嘉手納基地包囲につぐ二度めの快挙に、賛辞を送りたい。

その前日、自衛隊の潜水艦が釣船と衝突した。多くの犠牲者の冥福を祈りたい。

自衛艦の進行の判断、事故処理のまずさが明らかにされつつある。軍隊(憲法九条論はさておき)などは、決して人命を守るものではないことを満天下に明らかにした。

怒りを覚える。国会で消費税論議が展開されているが、金がないなら軍隊(自衛隊)に金をかけなきゃいい。国を守るといったって、日本人の命を守れないような軍隊なんていらない。右翼や自衛隊支持者がどう弁解したって、衝突事故の事実はその論の正しさを証明している。

こうなりゃ横須賀基地包囲だ。海の基地包囲なんてできっこないってやれるさ。若い奴には、ウインドサーフィンを身につけてもらい、大漁旗を掲げた漁船を並べ、海の家からゴムボートを借りて、平和マークのフンドンを付けて遠泳大会だ。岸壁からは投げ竿で軍艦に向かって威嚇釣りだ。基地ゲート前で、線香花火大会、暴走族を集ませ、ホコテン、ディスコにスケボー大会。何なら笹川さんからモーターボートを借りて競艇でもやっちゃおうか。警察に文句は言わせない。取り締まりはさせない。30人の犠牲者をどうするんだ。

八・六、八・九、八・一五、暑い夏だけではない。日常の反軍だ。(タイガ)

# 自治研 センターニュース

1988. 9. 10

No. 71

発行責任者 深堀義孝  
川崎地方自治研究センター  
電話 044 (244) 7610

## ペラペラ 英語

## たくさん国際友人

### 英会話10月期生募集

好評をいただいています自治研センター主催の英会話講座。新たに友好都市ポルチモアからダンカン先生を迎え、10月から再開します。御希望の方は、自治研センターまでお申し込み下さい。(244-7610)

(「入門」講座)

毎週火曜日(開講日9月27日)

(「初級」講座)

毎週木曜日(開講日9月29日)

いずれも、午後6時～7時30分

期 間 10月～3月

場 所 川崎市労連会館4階会議室

講 師 ダンカン・ジェイムス・キャトリング先生

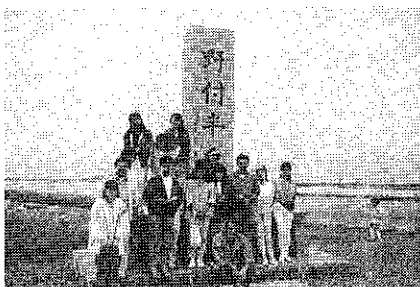
テキスト・教材は後日指定

定 員 各15名

受講料 1ヶ月4千円(2万4千円一括納入)

募集期間 9月21日～24日まで

※ なお、希望者多数の場合は、別に2講座を開催する予定です。



## 生まれたての仔牛ってかわゆいー

### ——中標津酪農体験ツアー——

北海道の東のまん中、中標津町、視界330°の開陽台から見渡す大平原は、ほとんど牧場。遠く浮かぶ国後、択捉、知床岬に摩周岳。ほーんと、スバラシイやね。

8月12～15日。3泊4日の酪農体験ツアー。あいにくの天気だったが、町をあげての歓迎に女性参加者10名は大感激。

1泊めのファームステイ。分宿した2組の牧場で仔牛が生れた。牛なんてさわったことのない彼女たちが、まわりついてくる仔牛にふれて「うわーん。さわっちゃった。アッタカーイ。」乳しば

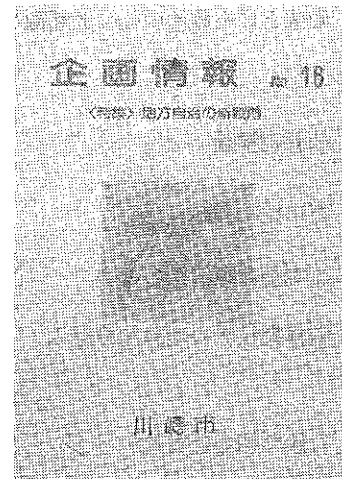
りの見学や糞尿処理。牛ってかわゆいの連発。

ノサップ岬。トドワラ、知床、摩周湖、阿寒湖。おいしい肉に、特産島エビ、花咲ガニ、チーズケーキにミルク酒。太っちゃったとゼイタクな声。

地元の人たちのやさしさにふれ、青年達との交流を楽しみながら、「北海道っていいトコ、良かったネ」のアンケートの回答でした。

## お役に立てば——川崎市政資料紹介

「企画情報」 No.16



毎年1回企画調整局から発行される市政研究誌。今年3月発行されたNo.16は、〈地方自治の新段階〉という特集が生まれ、鳴海正泰氏や藤田親昌氏、松田美夜子氏な

ど市内外の論客から、地方自治・川崎市政への提言を受けている。

また、編集後記、「市民運動家は市民生活の諸相において、職員のかかわり方を問うている。『市民とともに築くあすの川崎』に向かって、行政への市民参加から市民への行政参加という創意工夫が求められ、職員の問題意識と政策立案そして執行能力が試されるのである。」とあるように、このようなものを底流としてこの誌が編まれている。

市政の第一線で働く職員のレポートや報告を多く掲載しているが、その短い文章の中に、今市政の抱えている課題や問題点が明ら

かにされている。

抽象論にとどまらず、具体的な問題にまでふみこんでいる点、文才のある職員の論文もあれば、典型的な官僚作文のようなものもあり、バラエティに富んでいておもしろい。

ただ残念なのは、年に一回の発行ということで、情報・課題等、時の移りの早さに追い付かず、陳腐化してしまっているものがみられる。

このような誌は、職員の啓発だけでなく、市民が市政を理解するうえでもビビットな課題を具体的に論議する場として十分に活用されることを期待したい。

## 友よ、書を読み

### 街へ出よう

#### 読書会

「人は死ねばゴミになる」

伊藤栄樹著 新潮社

「ミスター検察」といわれ、戦後数多くの疑獄事件を扱った著者。ガンを宣告された後の生き方を探る。遺著「秋霜烈日」とともに、感動をよぶ。

9月19日(月)午後6時～市労連会館4階

講師 酒井成美氏(『デルタ』同人)

#### 研究会

「男たちの意識革命」

下村満子著 朝日文庫

女が強いアメリカ。女性が社会変革の担い手としてその力強さをみせている。フェミニズム、エコロジー、オルターナティブ、反原発。アメリカだけではない、日本でもそうだ。

副本「女たちが変えるアメリカ」

ホーン川島瑤子著 岩波新書

9月26日(月)午後6時～市労連会館4階

講師 佐藤紘毅専任研究員



## 「女が働くこと ということ」

講師 加納美紀代氏(女性史研究家)

日時 9月22日(木)午後2時～  
場所 神奈川県高津合同庁舎 溝口駅歩5分

生活クラブ生協と共催します。  
ワーカーズコレクティブ、オルターナティブ、難しい英語が今女性を中心とした生活、働き方の変化を表している。

生産現場から消費の場へ、社会変革の視点を変え、新しい生き方を模索する、女性の生き方、働き方を学ぶ。





# グラスノスチ

No. 2

購入図書貸出のお問合せ  
は自治研センターまで

T.G.A.L. (Think Grovally, Act Locally)

KAWASAKIの国際化を考える会への参加者募集

## 図書一覧表

1987年8月～			
社会主義の再生は可能か	三一書房	江口 幹	
現代地方自治の座標	勁草書房	佐々木 信夫	
自治体のオフィス 革新戦略	産業能率大学	茶谷 達雄 中田 重光	
欧米地方自治権の研究	勁草書房	宮崎 辰雄	
収斂の終焉	有信堂	J・H・ゴールドソープ	
日本型政治の本質	TBSブリタニカ	ジェラルド・カーティス	
新しい自由主義	学陽書房	ラルフ・ダーソンドルフ	
地域からの教育改革	自治体研究センター	篠原 一名 枚 征	
労働時間短縮への提言	第一書林	労働時間問題 研究会	
レヴァイアサン新保主義の台頭	木鐸社	猪口 孝夫 村大 岐秀	
情報革命時代の経済学	岩波書店	竹内 啓	
比較政治制度	東京大学出版会	佐藤 功	
官僚国家と地方自治	未来社	大島 太郎	

独裁と民主政治の社会的起源(I)	岩波書店	バリトン・ムア Jr.
"	(I) "	"
公共企業論	有斐閣双書	一大肥 智司 瀬島 国和 後 雄夫
都市型社会の自治	日本評論社	松下 圭一
日本型政策決定の変容	東洋経済新報社	中野 実
転換期世界の理論的枠組み I	有信堂	武者小路 公秀 白井 久和
"	II "	"
行政の機能と構造	成文堂	レナテ・マイソツ著

**ビデオ貸出**  
「1987年6月民衆大抗争」  
製作 民主争取キリスト教共同委員会  
オリンピックをめぐる、朝鮮半島で学生内での統一運動が盛んになっている。民主化された韓国は今も揺れている。昨年夏、韓国の民主化を求めて立ち上がった労学運動のビデオを購入。

外国では、日本製の自動車や電気製品などがもてはやされています。日本では、味噌の原料の大豆からあまエビや子供の玩具にいたるまで外国産や外国製品に囲まれています。

何年か前と比べても回りに外国人が多くなったと感じます。外国から川崎に働きにきたり、勉強をしにきている人が増えているのです。一方で私達も外国に行くことが何ら珍しいことではなくなりました。

そういう中で、数々の問題があります。少し古いことを言えば、売春ツアーがありました。今はじゃばゆきさん、そして男じゃばゆきさん。日本に住む外国人があまりの物価高に喘ぐすがたが新聞記事になります。海外帰国子女が日本の学校に馴染めないという問題があります。在日外国人の80%余を占める韓国、朝鮮の人たちが関わり続けている問題があります。そして様々な問題は、私達自身を考えさせるチャンスを与えてくれます。

国際化ってなんだろう、国際人ってなんだろう、私達はいろいろな疑問を持っています。私達は勉強しながら答を見つけたいと考えています。同時に具体的に出来ることを追求したいと思っています。

**組織形態について**  
KAWASAKIの国際化を考える会は、会員の自主性を大切にしたいと考えています。それぞれの会員が取り組むべき事柄を持ち、しかし協力しながら、多くの人たちとの繋がりを広め、深め合えるような組織にしたいと思っています。

KAWASAKIの国際化を考える会について説明しましたが、活動についても組織形態についてもこれといって決まったものはありませんので、より多くの方々の参加を希望しております。

柔軟な思考であることを参加者のただ一つの共通基盤にしたいと思っています。

第一回 9月20日 6時 中原市民館 第二会議室

多くの友人の参加をお待ちしております

問い合わせ先 川崎市幸保健所 保健予防課 伊藤 政子 522-7315  
建築局 庁舎建築課 浅井 雅美 200-2957

## うたぎのどこ

夏休みが終わった。今年、天候不順でレジャー予定がくるった人も多かったと思う。最近、リゾートという言葉が頻りに聞く。週休2日や長期休暇等余暇時間の増大により、中長期滞在型のレジャーに移行するという予測からだ。また、内需拡大という経済的要請にもよる。

リゾート開発というと、民間デベロッパー資本の名が浮かぶ。主だった観光地の別荘地のマンション分譲だのは、大資本系列の開発業者の看板が目につく。テニス、スキー、ゴルフ等スポーツ施設を核としたリゾート地は都会の喧騒とうさぎ小屋の日常生活から離れ、つかの間のリッチな気分に分浸れる。悪くはない。

の不動産屋と話をした。「東京の大資本が、それこそ一山いくらで大量に土地を買い占め、ブルドーザーで造成し、安っぽい白樺の木を植えて、法外な値段で売り抜いていく。そのおかげで周辺の地価が上がっていく。レジャー施設つきのリゾート開発は、その土地空間だけで完結し、流通消費・雇用等地域還元はほとんどない。しいてあげれば、開発地までの道路の整備と、固定資産税収入の上がりがある。都市と農村の問題は、労働力の流失、過密過疎の問題から、前向きな都市農村提携にうつっている。しかし、大資本の介入は、その積極的な効果を引き出しにくい。

だがしかし、地方自治を考える身になると、一言、二言注文をつけたい。一つは、高すぎないかということだ。たしかに都会の生活のシステム(栓をひねるとお湯が出る。水洗便所等)が保証され、加えて至れりつくせりのサービス、そして人手を加えた美しい自然の景観。その附加価値を考えれば、それなり価値もやむを得まい。しかし、貧しいサラリーマンのふところ具合では、年に何度も長期に楽しむというわけにはいかない。二つは、地元との遊離である。ある有名な観光地に近い地元資本

言葉に出すほど易くはないが、都市と農村の自治体間交流が期待される。先日、高山市で行われた集会のシンポジストとして招かれた大手デベロッパー顧問の話である。「観光地で主だったところは、既に我々が手を着けた。残るのは過疎にあえぐ地域だが、そういう所にも自然が残っている。良い所はある。自治体の腕の見せ所だ。都市農村の自治体間交流と、職場の福利厚生も扱う労働組合の行動が必要だ。」

国の進める「リゾート法」は、審らかにみれば問題はあろうが、それにしても中標津はすばらしかった。(タイガ)

# 自治研 センターニュース

1988. 10. 11  
No. 7 2  
発行責任者 深堀義孝  
川崎地方自治研究センター  
電話 044 (244) 7610

## 我愛你 —中国語講座募集—

やさしい笑顔が人気の区先生の中国語講座。11月から新しい講座が開かれます。

姉妹都市瀋陽のみならず、敦煌・楼蘭と何かと話題の中国。まず、言葉を学んでより身近になりましょう。

期 間 1988年11月～1989年4月  
(6ヶ月間)

日 時 毎週水曜日 午後6時～7時  
30分

場 所 市労連会館4階会議室(川崎  
駅下車)

費 用 1ヶ月4千円(6ヶ月分一括  
納入)

募集人員 15名

申 込 10月20日～25日

自治研センターに電話で。

講 師 区 建英先生(東京大学大学院)

初心者も大歓迎です。

## 友よ書を読み街へ出よう

### 読書会

「キッチン」 吉本ばなな著 福武書店

日 時 10月24日(月)午後6時～

場 所 市労連会館4階会議室

講 師 酒井成美氏(『デルタ』同人)

### 研究会

「大恐慌のアメリカ」 林敏彦著 岩波新書

日 時 10月31日(月)午後6時～

場 所 市労連会館4階会議室

講 師 佐藤 紘毅専任研究員

1929年10月、ニューヨークを株価の大暴落が襲った。それは繁栄を謳歌していたアメリカ社会を奈落の底に突き落とした。

50余年を経過し、世界経済は再び混迷している。ブラックマンデーは、崩壊の予兆か? 温故知新、大恐慌の歴史を学ぶ。



## 「日本の国際化とアジア」

講 師 松田瑞穂氏 (HELP)

日 時 10月26日(水)午後3時～

場 所 中原市民館3階第1会議室

ソウルで華々しく開催されたオリンピック。その間も、日本近海で日米韓合同軍事演習が行われ、ビルマではクーデターがおこり、カンボジアでも依然として政情不安がつのっている。

NIESも必ずしも安定しているとはいえない。中国もゆるやかに変化している。

そして日本。「天皇」をめぐる政治が不穏な動きをみせている。

アジアを考えたい。

## 「スペインにおける地方自治と労働事情」

前専任研究員だった野上和裕都立大助教授が主に執筆した自治研センターの報告書だ。

スペイン。その国の名のひびきは、私たちにさまざまなイメージを浮かべさせてくれる。情熱の国、フラメンコと闘牛、中世のたずまいをみせる都市景観。そしてガウディからオリンピックへと関心が高まるバルセロナ。しか

し、その政治は長いフランコ独裁統治下スペイン人民戦線、カタロニア、バスク等々、文学的な香りニア、を漂わせた政治問題をかかえつつも、第二次大戦後は日本になじみの薄いものとなっていた。1975年11月のフランコの死後、スペインの民主化が開始された、139ページにわたる本誌は、豊富な資料をつかひながら、克明にそ

いかがで  
しょうか



の民主化過程を追う。

スペインの地方自治と労働問題。雑誌などからはなかなかえられない側面からの切り口はおもしろい。



## 酪農学んで、 生活革命

●給与：月75,000～100,000円

(食事代は1日1,000円個人負担)

〔年齢〕18歳以上～30歳迄(健康で明るい独身男女)

〔待遇〕研修会、共進会交流会等を随時開催又は参加先進地、観光地視察年2回 作業衣、寝具貸与、傷害共済等完備 1日実働8時間程度

▶連絡先◀昼間=(01537)-8-2111

夜間=7:00～10:00 8-2601

又は3-7024

●期間：長期=6ヶ月以上

中期=2ヶ月以上～6ヶ月未満

(長期を望む)

中標津町の計根別農協では、酪農の実習生を募集しています。

将来酪農経営をやってみたいと思っている人、酪農体験を通じて生活を変えてみようと考えている人、チャレンジしてみませんか。

詳しいパンフレットが自治研センターにありますので問い合わせて下さい。



# グラスノスチ

No. 3

購入図書貸出のお問い合わせは  
自治研センターまで



## この指とまれ

経済統計用語の解説

日本政治の座標

政治のこぼれ状況の奥を読む

日本の政治過程

コミンテルン史

Ⅳ 地域研究 講座政治学

イギリス国債史

フランス政治体制論

地方自治時点

地方公務員関係法

行政裁量と行政救済

ポスト社会主義

- 福祉国家 1. 福祉国家の形成
- " 2. " 展開 [1]
- " 3. " [2]
- " 4. 日本の法と福祉
- " 5. 日本の経済と福祉
- " 6. 日本の社会と福祉

政商たちの野望の報酬

自民党派閥

労働時間と法

都市法

CATV行政'86

図解・世の中こうなっている

カナダの政治と憲法

民間活力の証明

経済企画庁経済統計  
研究会編

有斐閣選書

毎日新聞社

梓出版社

現代史研究所

三嶺書房

新評論

芦書房

良書普及会

総合労働研究所

三省堂

新泉社

東京大学出版会

"

"

"

"

コスカ出版

びいぶる社

日本評論社

ぎょうせい

"

PHP研究所

三省堂

第一書林

一 郎 定夫  
宅 一 枝 栄  
山口 藤 真 澄  
山 川 真 澄  
松 進 中 章  
三 竹 下 章  
アルド・ア・ゴスティ  
石堂 清倫 訳  
矢 野 暢  
E・L・ハーグリーウス  
桜 井 陽 二  
丸 山 高 満  
地方公務員関係会  
研 究 会  
阿 部 泰 隆  
A・トウレーヌ  
東京大学社会科学  
学 研 究 所  
菊 池 久  
野 沢 浩  
五十嵐 敬 喜  
CATV行政問  
題 研 究 所  
らくがき舎  
ジョン・セイウェル  
吉田 健正 訳  
東京自治研究セ  
ンター

先進社会・日本の政治  
民活プロジェクト  
ブルーガイド海外版 (ギリッパ・エグ海)  
朝日旅の百科 (海外編ギリッパ)  
ギリッパが愛  
'87~88地方議会便覧  
電脳都市  
情報公開 現状と課題

" 開かれた社会をめざして

高校日本史教科書

ボックス・ソビエチカ

政策決定と社会理論

現代日本の政治構造

ミーティングの上手なすすめ方

日本の地下鉄

私の見たベストロイカ

中国人民解放軍

文化の解釈学 (I)

" (II)

ソ連——誤解をとく25の視角

地方自治 ——その法としくみ——

政治家VS官僚

経済統計入門

自治体における行政改革

社会科学の計量分析

凍土の共和国

議会の調査権

出先機関の実態と課題

法律文化社  
公共投資ジャーナル社  
実業之日本社  
朝日新聞社

東洋堂企画出版社

岩波書店

有斐閣

学陽書房

三一書房

新評論

良書普及会

芦書房

日本実業出版社

岩波書店

"

"

"

"

中央公論社

学陽書房

東洋経済新報社

東大出版会

ぎょうせい

東大出版会

亜紀書房

ぎょうせい

"

戴野 祐三

メリナ・メルクーリ

坂村 健行

八木 敏行

秋山 幹男

三宅 奥津茂樹 共著

中村 文雄

エレース・カレル

尾崎 浩二 訳

河 中 正 則 敏 夫 行 覚

高小上 福 市 川 和 久 田 康 雄

和 平 松 茂 雄

C ギアーツ

市 川 和 久 田 康 雄

和 平 松 茂 雄

C ギアーツ

"

"

袴 田 茂 樹 彦 藏 英 一 雄

原 田 尚 泰 隆 英 期 雪 夫 啓

薬 師 寺 中 磯 坂 村 田 木 内 金 元 浅 野 一 郎

中 磯 坂 村 田 木 内 金 元 浅 野 一 郎

磯 坂 村 田 木 内 金 元 浅 野 一 郎

磯 坂 村 田 木 内 金 元 浅 野 一 郎

磯 坂 村 田 木 内 金 元 浅 野 一 郎

磯 坂 村 田 木 内 金 元 浅 野 一 郎

磯 坂 村 田 木 内 金 元 浅 野 一 郎

磯 坂 村 田 木 内 金 元 浅 野 一 郎

T. G. A. L. より

KAWASAKIの国際化

を考える会の第1回発足会

が、9月20日中原市民会館で

行われた。

参加者は23名、それぞれ自

由に国際化について発言した。

いろいろな意見が出された

が、だいたい次のようにまと

められよう。

1. 市職員が共通基盤であ

り、神奈川県を参考と

して市政の見直しをして、

提言してはどうだろうか。

2. 外国人向け生活情報誌を

発行する。

3. 国際化とは何かを勉強す

る会として、また国際化に

関する情報を交換する場と

しての在り方を探ってはど

うだろうか。(会員が自分

は何が出来るかを登録し

て、ボランティアとして活

動する。)

4. 外国人との直接交流を求

めてはどうだろうか。

以上のような問題意識の中

から、では具体的に我々は何

ができるのだろうか。

第2回発足会では、そのこ

とを話し合っていきたいと思

います。是非多くの方の参

加をお願いします。前回

参加できなかった方も大歓迎

です。

第2回発足会

10月28日(金)午後6時~

中原市民館3階和室

問合せ 川崎保健所 伊藤政子

522-7315

建 築 局 浅井雅美

200-2957

## うなぎ物どこ

北方領土を見た。根室半島の先、納沙布岬から眺めた。

ほんの目と鼻の先、ソ連領土とされているちっぽけな貝殻島まで約二、四km、その半分の距離一、二kmがソ連になってしまふ。泳いでいける距離だ。

愛国主義者でも反ソ主義者でもないが、むしろうに腹立たしさを感ずる。わずかに先にソ連の軍船が通る、日本の漁船が捕される。

国を意識せざるをえない。おりから、ソウルオリンピック、天皇の病氣等NIPPONが増幅されて私達の意識に込みついてくる。日本人が日本を意識しすぎるとロクなこととはないと歴史が教える。今回もロクなことにならないきやいなと思ふ。

国家権力は暴力装置である。地方自治は民主主義の学校である。故に、地方自治を推進しなければならぬ。強引な三段論法ではあるが、地方自治体は、平和の担い手であることに間違いない。

異民族の人と交流するとき、国を意識しない同じ人間だという感覚でつきあいたい。人と人の交流の橋渡しを自治体がつとめる。在住している人、親戚がいる人、旅先で友人になった人、やさしさと思いやりの中から交流が生まれる。

国を越えた自治体を通じた交流はおもしろい。川崎市もインド洋上に浮かぶ人口七万の国セイシェルとの交流が盛んになっている。

もう一度、国って何なのだろうと考える。

(タイガ)

# 自治研 センターニュース

1988. 11. 10

No. 73

発行責任者 深堀義孝

川崎地方自治研究センター

電話 044 (244) 7610

## 第2回理事会が行われました

87年度第2回理事会が、10月18日に市労連会館4階会議室で開催されました。第1回理事会以後の活動は表のとおりです。

主な経過の中で、自治研センターと北海道中標津町との共催による酪農体験ツアーが

8月に行われたことの報告がありました。中標津町との交流は、酪農業後継者対策への協力から、中標津町の産物を川崎市民に供給するなどの経済交流や、川崎のぜん息児の転地療養対策に中標津町が協力するなど、息の長いものに

なるように、進藤町長と伊藤市長の間で話し合われています。

英会話講座は、10月から再開され、新たにボルチモアからの交換教師として着任されたダンカン先生が2講座、上智大学の大学院生のスコップフィールド先生が1講座担当されています。

市職労と共同で、第5次の「川崎市財政白書」が刊行されました。この白書のダイジェスト版も発行する予定です。会員、市民の幅広い活用をお願いします。

### 自治・教育・国際化 ネットワーク

続いて、協議事項の提案がありました。

1. 「川崎の教育改革協議会」への委員派遣について

この協議会は、川崎市教育懇談会の提言「いきいきとした川崎市の教育をめざして」や、川教組の「校区からの教育改革を」等を働く者相互で共通に理解し、実践するための方向づくり、政策づくり等研究・協議の場とすることをめざしたものです。メンバーは、川教組、市職労教育支部・民生支部からなり、自治研センターも、岩渕英之理事長、高島正晶会員（市教育委事務局）の2名を委員として派遣することにしました。

2. 「まちづくり情報センター・かながわ（アリスセンター）」への加入について

アリスセンターは、Alternative, Live, Intelligible, Community, Environment. の頭文字をとった市民運動の情報センターを目的としています。開発よりは緑の保全と選択、安全で新鮮な食品の自主購入と生産、地域での自治活動や自立的な文化・事業の創設、平和や反核の運動、それらを政治に反映させるための新しい組織づくりなど、様々な目的を持った多様な運動の情報ネットワークづくりを行っています。ともすれば、これらの運動が他との協力関係を持たず、孤立化してしまう傾向を防ごうというものです。

### 「ピースボートの思想と方法」

講師 原田 克也氏 (PEACE BOAT事務局スタッフ)  
11月25日(金)午後3時～産業文化会館3階第6会議室

日本の国際化を考えるシリーズの1つ。ソ連、中国、朝鮮半島、台湾、インドシナ、東南アジア諸国、そして沖縄etc. 極東地域を中心に回るピースボート。そこには、新しい発見

があり、未知の経験がある。入国拒否、軍艦の併走、船上シンボでの激論。若年層を中心として巻き起こった平和への願いの行動化。その思想と方法を聞く。

各種イベントや集会などの情報を蓄積し、発信し、交換し合うという機能を持っていますので、自治研センターもそこに加入し、活用していくようにいたします。

3. (仮称)「地方自治制度研究会」の発足について

革新市政を引き継ぎ発展させていくことを目標に、長期的展望にたった政策づくりスタッフ育成のために発足しました。

4. 地方自治総合研究所への「1989年地方委託費」の支出申請について

自治労の研究補助機関としてある地方自治総合研究所では、地方自治に関する調査研究をする研究機関などを助成するために地方委託費を支出しています。自治研センターではこれに対し、「地方自治体行政運営の過程における住民参加システムの実態検証と今後の民主的自治体運営の方向性」という研究テ-

マで申請することとしました。

5. 海外派遣について

川崎市の職員研修所が行っている若手職員海外研修も今年で6期生56名を数え、10月半ばより11名がヨーロッパ・アメリカへと各自の研究テーマをもって、研修先を訪問中です。

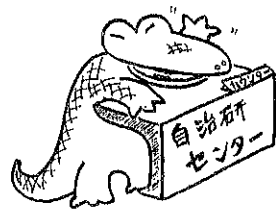
行政と自治研センターとの協力というユニークな研修として全国的にも注目されている制度ですが、フランス大使館を始め、現地の公的私的機関からいろいろと協力を得ています。今後この制度の継続と発展を目的として、あらためて各機関に協力、依頼をお願いするとともに、現状を調査するため和田秀樹事務局長を10月31日から11月16日まで、フランス、イギリス、イタリア各国へ派遣することになりました。

以上、経過、協議事項とも承認されました。

### 活動報告 1988. 6. 29～10. 6

第1回理事会以降の活動は次のとおりです。

- 6月29日(水) 第1回理事会(市労連会館)
- 7月11日(月) 自治研センターニュースNo.69発行
- 7月14～16日 自治労行革地域生活圏闘争全国活動者交流集会(岐阜高山)
- 7月18日(月) 読書会(スローターハウスファイブ)
- 7月25日(月) 研究会(参謀の昭和史)
- 7月27日(水) 定例学習会(競争経済から共生社会へ)
- 8月10日(水) 自治研センターニュースNo.70発行
- 8月12～15日 中標津町酪農ツアー
- 9月12日(月) 自治研センターニュースNo.71発行
- 9月19日(月) 読書会(人は死ねばゴミになる)
- 9月22日(木) 定例学習会(女が働くということ)
- 9月26日(月) 研究会(男たちの意識革命)
- 9月27日(火) 英会話講座(入門)開講(1989年3月まで)
- 9月28～29日 市職労第49回定期大会(幸市民館)
- 9月29日(木) 英会話講座(初級1)開講(1989年3月まで)
- 10月6日(木) 英会話講座(初級2)開講(1989年3月まで)



# グラスノスチ No.4

購入図書貸出のお問い合わせは自治研センターまで

## この指とまれ



新たな住民参加システムを求めて

——地方自治制度研究会発足——

かねてから参加メンバーを募集していた地方自治制度研究会が、10月18日発足しました。

川崎市に端を発したリクルート疑惑は、国中を駆けめぐっていますが、これをバネにした自民党の革新川崎つぶしが明らかになっています。自治研センターとしては、一連の汚職や不祥事等悪いものは悪いとしなければなりません、さりとてそれをもってして、市民本位の市政を進め、公害対策、福祉施策、衛生保健事業等全国的に最高水準を誇る革新市政そのものを否定することにはならないと考えています。

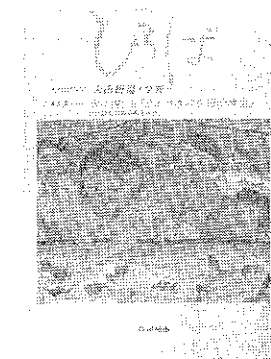
しかしながら、2001プランに基いた都市再開発、ハイテク産業への転換等の推進に、住民参加、市民の意見が充分に反映されているでしょうかとの疑問もあります。

革新市政のさらなる継承と発展、それは住民こそ主権者であるという姿勢なくしては語れません。発足会に集まったメンバーの意見のコンセンサスです。

今後、毎月第2・第4木曜日の午後6時から市労連会館4階会議室で研究会を行います。研究会に参加されるパトス人を募っています。ぜひ、自治研センターに連絡を。

## お役に立てば 市政資料紹介

グラフ誌「ひろば」



市民局広報課から季刊誌として発行されているグラフ誌。

88夏号は、大山街道と二ヶ領用水の二つが特集されている。

溝の口に近い大山街道は、江戸時代からの歴史がある。街道沿い

に古い蔵造りの家が並ぶ。街の趣きを伝える写真を多く使い、住民の声を載せた記事は読み易くおもしろい。

「水に親しむ『かわさきの水辺の再生』ニヶ領用水の自然を再び」と題した特集は、写真や絵をふんだんに使用し、ニヶ領用水の歴史、地理的な解説と親水性の意味そしてニヶ領再生の意義等政策面にまで及んでいる。

その他、ビジュアルに訴える記事、市民からのインタビュー、投稿etc.市民生活を幅広くとらえる編集方針に好感がもてる。

ある研究者と話をした。「市民

参加を標榜する革新市政というなら、市政の広報はもっと充実すべきだ。市政よりは毎月発行しているようだが、政令市川崎ぐらいになれば、それだけでは不十分だ。読み応えのある月刊誌を全戸配布するぐらいでなければだめだ。」

傾聴に値する意見だった。情報紙としての市政よりは、それなりの役割を果たしているが、物足りなさはある。「ひろば」のようなすばらしい雑誌があるのだからこれを研究者の言のように利用できないのだろうか。編集の労苦と経費は大変だろうが、市民本位の市政発展のためにも広報誌の充実を期待する。

地方行政下の自治体労使関係  
ウォーターフロントの再生  
公務員白書 昭和62年版  
政界臨時増刊—日本のゆたかさ  
データブック  
政変  
GNP 1%枠  
自民党全権の構図  
自民党転換期の権力  
安保迷走する革新  
ローザ・ルクセンブルク

緊急出版  
東洋経済新報社  
大蔵省印刷局  
岩波書店  
角川文庫  
"  
"  
"  
"  
"  
お茶の水書房

竹下英男  
石澤卓志  
人事院編  
"  
"  
"  
"  
"  
ハウル・フレリー上

地方議会  
ペレストロイカを読む  
電腦教育論

学陽書房  
お茶の水書房  
日本ソフトバンク

全国町村議会議長会  
各都道府県町村議会議長会  
和田春樹  
齊藤次郎  
三森なほ  
国家学会編

国家と市民 第2巻  
官僚制の権力と政策過程  
議会制度の諸問題  
バックスソビエチカ

有斐閣  
中大出版部  
立花書房  
新評論

藤田晴子  
エレヌ・カレル  
ダンコース

地方公務員その未来像  
さらば、たばこ社会

ぎょうせい  
合同出版

磯村英一 監修  
坂田期雄 編集  
伊佐山 芳郎

## お詫び

前号で募集しました中国語講座は、定員数に満たないためとりやめとなりました。ご応募のみなさまにはご迷惑をおかけしました。

## 友よ、書を読み街へ出よう

### 読書会

「不忠臣蔵」 井上ひさし著 集英社文庫

11月21日(月)午後6時～市労連4階会議室

「時に元禄15年師走半ばの14日、江戸の夜風をふるわせてひびくは山鹿流儀の陣太鼓、どなたかのことよりも、暮れになると日本人の心が騒ぐ忠臣蔵、奇才井上ひさしがどうさばるか。

講師 酒井成美氏(『デルタ』同人)

### 研究会

「新・ルポ精神病棟」大熊一夫著 朝日文庫

精神病、その起因、症状ともひとくくりにはできない病気が、日常社会の中から疎外されたものとして隔離されていく。人権や生存権すらも脅かされながら患者の苦悩が続く。そして白い巨塔たる病院社会。現代人の一割がその危機に陥る精神病棟の実態をルポする。

11月28日(月)午後6時～市労連4階会議室

講師 佐藤紘毅専任研究員

## うなぎのどろこ

原発建設計画が住民の反対で阻止された和歌山県日高町に行った。紀伊水道をはさみ四国を臨む日の岬から内海沿いに下ったところにある。

海は青く澄み、魚港以外は人手の加わらない自然の海岸が続く。後背はすぐ山で耕地が少ない。農業・工業的には適さない地との印象だ。

予定地周辺には、原発を地域経済振興と住民生活の豊かさにリンクさせた推進派の看板がまだある。自然が残る(つまり官民の資本が投下されていない)産業の進展が望めないところに、札束攻勢の火ダネはまだつきないのだろう。

川崎の黒川地区を歩いた。マイコンシティ開発により、駅前の様相は一年足らずで一変した。

唯一、川崎に残された自然とっていいところが、開発という名の下に荒される。残念だ。

民より官の方がまだましだという論理で川崎市が開発していくのだが、それならなぜ、自然を守る方向に行かないのかとの素朴な疑問がわく。

経済成長という論理が、生活の物的豊かさをもたらすとともに、心の豊かさを奪っていく。

エコロジーが、もう少し行政内部で真剣に議論されてもいいのではないかとと思う。産業開発優先が公害をもたらしした。そのみちを再び歩むのは進歩史観にも合わない。

(タイガ)



# 自治研 センターニュース

1988. 12. 1

No. 7 4

発行責任者 深堀義孝

川崎地方自治研究センター

電話 044 (244) 7610



## 「何で、同じみょうじじゃなきゃいけないの一夫婦別姓を考える」

講師 福島瑞穂弁護士  
日時 12月14日(水)午後3時～  
場所 産業文化会館3階第6会議室  
結婚したらみょうじが変わる。それなりに意味のあった名前も、みょうじが変わって笑われちゃったりして。それより何より、自らのアイデンティティを記号論的に確認するなら、まず名前でしょ。好きなつれ合いだから何でも理解しなきゃいけないけど、世間体だけで我慢しろはないわよねー。今、夫婦別姓問題が国会でも論議されて

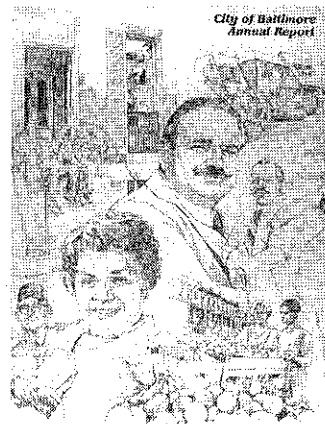
いる。男でも女でもどっちでもかまわないが、結婚したらどちらかの姓を名のらなきゃいけない。それを拒否すれば、生まれた子供は私生児扱い。世間に後ろ指をさされるつらい人生を送らせなければなりません。そんな世界的に見たって少ない。儒教思想って言ったって、お隣の中国でも朝鮮でも自分の名前は自分の名前。親からもらった大事な名前。それを一人の男(女)とくつつく代償に変えるって、問題があるんじゃない。

## いかがでしょう

いかがでしょう



### 1. 「ボルチモア市政概要」



川崎市で行っている海外派遣研修第2部の研修生有志が、姉妹都市のアメリカ合衆国のボルチモア市の1981年版市政概要を、約2年半の歳月をかけて翻訳した苦心作。

装幀、内容とも原本に忠実で、英語の部分すべてを日本語に翻訳したものだ。

編集後記にもあるように、10人の市職員が、辞書と地図を首っぴきで、自治研センターの佐藤、野上両専任研究員の指導を受け、また細部の難しい表現や固有名詞の不明なところは、ボルチモアの交換教師に直接聞いてといった苦勞があったようだ。

分担して翻訳した部分は、各自がワープロで清書することにしたので、機種によって文字の大きさなどが違うところはほほえましい。

いずれにしても、自治体の国際化が言われている今日、姉妹都市交流も代表団の派遣といった儀礼的なものから、文化・経済・教育等、実のある交流が必要とされている。その点からも、市職員の中から自主的にこのような試みがなされたことを素直に評価したい。

※ 500部製作しましたが、個人、団体会員に配布し、残部が自治研センターにあります。御希望の方は、無料ですので、自治研センターに連絡して下さい。

### 2. 第5次地方財政白書

川崎市職員労働組合の自治体政策部と自治研センターが共同して行った川崎市の財政分析をした書。

3割自治といわれる地方財政。国の財政再建政策にそった、補助金、交付金削減の実態、大都市で唯一地方交付税を受けない川崎市の財政。川崎の地方自治を理解するには、まず財政の実態を学

ぶことが必要だ。

ふんだんに市政資料を駆使したこの書は、市勢を理解する上にも役立つ。豊富なデータを見ながら、イメージと違う川崎を知る楽しみもある。

### 3. 海外派遣研修(第2部)報告書 ——欧米一人でない独り旅——

川崎市職員研修所発行。川崎市で行っている海外派遣研修第2部は、研究内容の指導と援助、現地での連絡調整等、自治研センターが佐藤専任研究員を中心として協力している。この報告書の作成もその一つである。

川崎市の海外派遣研修第2部は、市職員が、携わる業務と関係なく、地方自治の向上と発展につながるのなら何でも良いということで、各自の研究テーマに基づいて応募し、1ヶ月間、研修先や滞在所の手配等すべて自分で行うというユニークな制度で内外からの評判が高い。

87年度もヨーロッパに6人、北米に4人、第3世界開発協力、レイト(資産税)制度、現業労働

者の実態、国際交流、交通安全、消防広報、情報公開、痴呆性老人援助、地域精神医療、市民活動といったテーマで海外で研修してきた。10人がそれぞれ具体的な訪問先を叙述している。資料としても貴重である。海外の観光旅行も盛んであるが、自由時間に是非1つここに紹介された所を訪問してみたら、きっと違った印象を持った旅行になると思う。

### Welcome to Kawasaki シェフィールド大学

イギリスのシェフィールド大学の日本研究所の学生約40人が(一部オックスフォード大学生を含む)、来年4月下旬から約5週間、川崎を拠点に日本を実地学習することになった。

かねてから法政大学と交流を持っていた同大学が、川崎への協力を依頼してきたものだ。

現在、川崎市・教育委員会・法政大学と自治研センターで、受け入れを協議中だが、ホームステイ、通訳、イベントの世話役など広くボランティア活動ができる方を募っています。

# 川崎の自治

## 地方自治制度研究会の報告

10月から発足した地方自治制度研究会。約20人のメンバーが学習に入っています。

今まで、市民が参加する審議会・協議会の実態、市の広報広聴活動、「アメニティかわさき」の読み合わせと進んでいます。議論が白熱し、時のたつのを忘れます。

毎月第2・第4木曜日の午後6時から行っていますので、メンバーに加わりたい方の参加を待っています。

## 友よ、書を読み街へ出よう

### 読書会

「入試国語問題必勝法」 清水義範著 講談社  
12月19日(月)午後6時～市労連会館4階会議室  
受験、入試、楽しく甘酸っぱいはずの青春をクラーくさせる諸悪の根源。社会に出て役立つはずの学問が、全く役立たずだとしたら。しかも、国語すらも。気鋭の著者が暴く、現体制補完教育への意義申したて。副本「永遠のジャック&ベティ」講談社

講師 酒井成美 (『デルタ』同人)

### 研究会

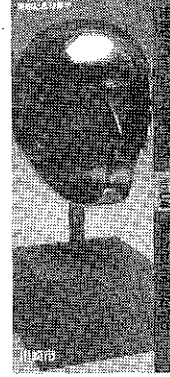
「農の情景」 杉浦明平著 岩波新書  
12月26日(月)午後6時～市労連会館4階会議室  
農産物の自由化論議。日本の農業が潰滅的な打撃を受けることが必至。経営的な感覚をもっと持て。いや、ちょっと待ってよ。農業ってそんなものかな。それだけでいいのかな。田んぼや畑や牧場って、見てるだけでスゴク心が和むじゃん。土にふれるって、汚れるけど楽しいよネ。農業、違った視点から眺めよう。

講師 佐藤紘毅 専任研究員

## お役に立てば——川崎市政資料紹介

### 「市民ミュージアムニュース」

No. 4



11月1日にオープンした市民ミュージアム。従来の官製博物館のイメージと違い、映画、ビデオなどの映像、ポスター、グラフィック、写真そして漫画に至るまで、現代の芸術ジャンルを中心とした展示物の収集に特色がある。

ロートレック、ウォーホル、土門拳、荒木経惟、手塚治虫等々、興味を惹ける展示ばかりだ。

等々力緑地の一角に、アルファベットのCをかたどったUFOのような建築物が浮かぶ。豪華な建物の前庭にある、黒光りするNKKのトーマス転炉が川崎らしい。

この市民ミュージアムから発行されている「市民ミュージアムニュース」。準備段階から発行されているので、No. 4が開館記念特集号になっている。

重ね折りのパンフレット形式で、手頃だ。内容も写真が

多く、美しい。オープンに向けての気負いか、メッセージが多いのが気にかかるが、ミュージアムが市民に定着するようになってから、シンプルなものになっていくのだろう。

今後、川崎市の文化の殿堂として市民ミュージアムが位置づけられる。企画展、特別展、映画会などソフト面での充実が何よりだが、宣伝媒体としての「市民ミュージアムニュース」が、市民との関係で重要だ。川崎の文化を代表するものとして、パイロットとして「ミュージアムニュース」の展開に期待する。

## うたぎのどこ

朝日新聞社発行の「追跡リクルート疑惑」を読んだ。スクープ取材に燃えた一二日の副題がついている。川崎に端を発したリクルート株取得をめぐる政官界の疑惑を追及した、朝日新聞川崎・横浜支局の記者達を追った本である。

読み易い。身近な話だし、記憶も新しい。家で職場で目を丸くして読んだ新聞記事が鮮やかによみがえる。

ある情報から、記事を書くまでに至る取材、裏付けの確認、デスクの判断。たんなる地方支局の若手・ベテランの記者達が、中央政界をも揺るがす大ネタに取り組む姿勢は圧巻だ。

昔、ウォーターゲート事件をスクープし、ニクソン大統領を退陣に追いやった「大統領の陰謀」を思い出した。ロバート・レッドフォード、ダスティン・ホフマンの主演で映画化されたので、記憶されている方も多いうらう。

権力犯罪に向かう苦勞は、圧力、脅迫、暴力。tc. 並大抵なものではないが、記者冥利につきるだろう。朝日も含め、NHK、読売等々、マスコミの右傾化、保守化が喧伝されているが、権力に迎合しない姿勢が、筆一本でこれだけの影響力を市民に提供できる。社会の木鐸という本分を貫く重要性が改めて認識される。

それにしても、小松前助役、日本中が注目した百条委の出席。その答弁は、内容の真偽はともかく、手慣れた議會答弁のように堂々としていた。議員先生たちの方が、タジタジといった印象だ。これをもって「さすが人間機関車、やっぱり惜しい人材だ」といった賞讃の声もあると聞く。

冗談いっちゃいけねえ。公僕論そのものには問題はあるが。公務員たるもの、まず市民生活をいかに安定したものにするか、そのためにどれだけ仕事をやるか、給料がえらるはずだ。ヤバくなったら、香港・ハワイに高飛び、三六〇〇万もの借金を人間関係だけの担保でするような姿勢はヤクザまがいだらう。

仕事ができなかつたかできないかという議論だつて、市民生活への影響を考えずに、民主主義を忘れ、役所のルールを無視してやれば誰だってできる。一流の民間企業に比べ、そんな人材はゴロゴロしている。たまたま役所にいたから、長期安定政権だったからこそできたんだということ忘れては困る。

積極的な姿勢は何にとつても必要だが、逆説的な言い方になるが、役所なんてチョコボチョコボや、役人にヤデンチャバラせなさい。こう市民に思わせるような積極的な市政・行政になることが必要だ。

再び言うが、市民自治を忘れた革新市政は、歌を忘れたカナリヤだ。市民こそ主人公。この感覚が薄れたときこそ危険だ。

(タイガ)